

東北大学入試センター

令和4年度年報

令和6年3月

巻頭言

東北大学入試センター長 長濱 裕幸
(東北大学大学院理学研究科地学専攻教授)

東北大学では、1907年の開学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」を基本理念に、日本と世界の将来を担う人材を育てることを最大のミッションとして、現在まで161,314人(2021年3月31日現在)の卒業生を輩出してまいりました。入学者選抜は大学と社会との関わりの中で重要な意味を持っています。東北大学における教育を通じて指導的人材を育成し社会に貢献すること、また大学における教育・研究の基礎となるのは個々の構成員であることから、入学者選抜は教育・研究機関としての東北大学の評価にも大きく影響することになります。そこで、国立大学初のアドミッションズ・オフィス(AO)入試の実施組織として、東北大学アドミッションセンターが1999年4月に設立され、その後、学部入試と大学院入試を含む東北大学の入学者選抜を統括するために、東北大学入試センターが2005年4月に発足しました。

基本方針が入学者選抜要項等にも記載されているアドミッション・ポリシーは、策定してから10年以上経過しており、数年前に策定のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関連を緊密に進めるために、本センターを中心に改訂作業を行っており、各学部のポリシーも見直しているところです。大学・学部・選抜方法の各段階で、様々なアドミッション・ポリシーが掲げられていますが、東北大学建学以来の「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の三つの理念に基づき、本学に相応しい学生を選抜するという基本線は共通しています。具体的には、「21世紀の人類社会の課題に対して、真剣に取り組む研究者として」或いは「豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として」社会に貢献しようとする志を持ち、これを実現する固い意志、学問に対する探究心、本学学士課程を受けるのに相応しい高水準の学力を備えた学生を選抜すべく、入試センターとしても各学部と連携して取り組んでまいりました。

本学は、2017年6月30日付けで、文部科学大臣より指定国立大学法人の指定を受けました。指定国立大学法人に向けた構想は、これまでに培ってきた教育研究の成果や伝統を基盤としつつ、卓越した教育研究を通して絶えることなく人類社会に貢献する知を創造するとともに、新たな時代に向けた社会・経済システムの変革を先導することを目指して、「創造と変革を先導する大学」への進化を図るものです。Times Higher Education「THE日本大学ランキング」では、東北大学は4年連続で総合ランキング1位の評価を受けました。教育、研究、社会連携の好循環に基づく「創造と変革」の姿勢、目指している学生の「挑戦する心」を育て、羅針盤のない未来を担う人材を世界に送り出す大学として評価されました。また朝日新聞出版の大学ランキングで、全国の高校進路指導の先生方のアンケートのうち高校からの「総合評価」で大学ランキング2016までは11年連続全国1位でした。大学ランキング2017では残念ながら2位でしたが、大学ランキング2018以降から大学ランキング2021まで再び連続で1位となりました。現在、高校からの評価ランキングは細分化されましたが、2024年度版では「入学後、生徒を伸ばしてくれる」で3年連続全国1位の評価を受けております。このことは全学教育を始めとする東北大学の教育に対して、先生方から高い評価を頂いたものと受け止め、いただいた評価に相応しくあるために、襟を正し努力してゆく所存です。入試センターとしてもオープンキャンパスや大学案内や各説明会での広報活動を通し、情報提供に努めてまいります。

東北大学の志願者についてですが、令和3年度入試と令和4年度入試を比較すると少子化に加えて、共通テスト2年目で数学の全国平均点が大幅に下がり、受験生の志望校選択と安定志向のためか本学の受験生もやや減少となりました。また、極めて残念なことに東北地方出身者、宮城県出身者についても減少しております。本学としては、引き続き、東北地方志願者の増加に向けて努めていく所存です。

AO入試を多面的・総合的評価による重要な選抜方法として位置付け、平成33年度入試（平成32年度実施）までにAO入試入学定員を30%に拡大する方針を決定し、2020年度は経済学部で新たに理系を対象としたAO入試が導入され、AO入試全体としては、2022年度入試で31.5%に達しました。全募集人員の3割を占める総合型選抜(AO入試)では、Ⅱ期・Ⅲ期合わせた志願者は過去最高となりました。言うまでも無く、本学の高大接続改革への取り組みはAO入試や特別選抜の枠の拡大に尽きるものではありません。部局評価指標では、指定国立大学法人構想調書に掲げる目的の達成の為に重要施策として、AO入試実施方法も合わせて本格的な検証と再評価を進め、学部に対する全学的な支援体制の一層の充実が大いに期待されているところです。そのために私どもは、個々人の研究と共同研究、部局との連携で解決する課題、全学の協力でなしうるもののそれぞれにおいて、尚一層、力を尽くしてまいります。

AO入試30%への拡大方針の下、オープンキャンパスや進学説明会・相談会等を通じて入試に関する情報提供に努めてまいりました。特にオープンキャンパスは、全国でも最大規模のイベントに成長し、2019年度は68,403名が参加し、過去最高の延べ参加人数となりました。(朝日新聞出版「大学ランキング2021」で1位)しかし、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインオープンキャンパスを開催し、158,256名のオンラインでの参加がありました。今後も、高校生の皆さんにとって、より魅力ある大学としてのオープンキャンパスを企画していきたいと考えております。

さらに、高大接続改革が進む中、平成28年度以降東北大学入試センター自体にも、人事面を中心に大きな改革がありました。2022年度から須藤彰三名誉教授(物理)、飛田博実名誉教授(化学)、石田正典名誉教授(数学)、佐藤勢紀子名誉教授(国語)の4名の先生方に特定教授をお務め頂き、一般入試やAO入試の作題、そして入学前教育にご尽力頂きました。また、石井裕基先生(数学)、加藤徳善先生(物理)が4月に特任教授として着任され、秦野進一先生(英語)が10月から特任教授として再び着任されました。南紅玉助教は9月末に退職されました。これによって本センターはセンター長を含め、2023年3月現在で9名体制となりました。2023年4月からは1名の任期付き助教と国語・生物・化学の3名の特任教授と生物の特定教授(1名)が加わる予定です。このようなマンパワーの増強により、着任された先生方には各学部の様々なニーズに応じていただき、AO入試による募集人員を30%に拡大するという本学の方針を着実に進めてまいりました。また、入試説明会とその成果の相関分析をより緻密なものにすることが可能になっております。一層の受験者増につながるための細かいデータを部局に提供しているところです。本センターのこれからの取り組みにご理解を頂き、今後とも変わらずご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

1. 東北大学入試センターの組織	
1. 1 入試センターの沿革と組織概要	1
2. 令和5年度東北大学入学者選抜概要	3
2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）	3
2. 2 入学者選抜日程	5
2. 3 入学定員・募集人員	8
2. 4 入学試験実施状況	11
2. 5 志願者数の変遷	26
	P12-28 は非公開
3. 令和4年度東北大学入試広報活動	29
3. 1 入試広報の概要	29
3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）	30
3. 3 オープンキャンパス	31
3. 4 教員対象入試説明会	34
3. 5 各種入試説明会状況（令和4年度）	36
3. 6 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会・相談会〔主催：東北大学〕	38
3. 7 高校の要請による講師派遣状況（令和4年度実績）	44
3. 8 広報活動の成果	48
4. 入試センター教員の活動	70
4. 1 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討	70
4. 2 入学者選抜の実施	72
4. 3 入試広報活動	72
4. 4 高大接続・連携事業	73
4. 5 国立大学アドミッションセンター連絡会議	73
4. 6 個別教員の活動	74

1. 東北大学入試センターの組織

1. 1 入試センターの沿革と組織概要

(1) 沿革

平成11年4月1日 東北大学アドミッションセンター設立（センター長および専任教員3名）

平成16年10月1日 アドミッションセンターの教員組織が東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）

アドミッションセンターは業務組織として存続

平成17年4月1日 業務組織としてのアドミッションセンターが東北大学入試センターに改組

平成26年4月1日 入試センターの教員組織が東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）

平成28年4月1日 高大接続改革における入試改革のために入試センターを拡充，高校教員出身の特任教授2名及び若手教員1名を任期付きで採用，以後増員を図る。

平成29年4月1日 入試センターを拡充し，専任教員4名，特任教員4名の体制となった。

(2) 組織概要（令和4年度）

入試センター長

長濱裕幸（東北大学大学院理学研究科教授）

兼務教員（高度教養教育・学生支援機構 入試開発室専任教員）

倉元直樹（教授，教育心理学・社会心理学；大学入試／測定評価／文化心理学等）

宮本友弘（教授，教育心理学；教育工学）

久保沙織（准教授，心理統計学・教育測定）

南 紅玉（助教，教育学・生涯学習論）

特任教員

末永 仁（特任教授，生物教育），阿部和久（特任教授，国語教育）

石井裕基（特任教授，数学教育），加藤徳善（特任教授，物理教育）

秦野進一（特任教授，英語教育）

教育・学生支援部入試課（定員8名）

嶋津貴宏入試課長，大友利之入試課長補佐，遠藤学入試企画・調査係長，

松田和之入試実施係長／阿部伸入試実施係長，高橋照幸入試実施係主任，

金濱栄作入試実施係主任，

大友俊弥入試広報係長，矢野惇入試広報係員／山岸入試広報係主任

(3) 歴代センター長

アドミッションセンター長：

第1代 中塚勝人（工学研究科教授） 平成11年4月1日～平成12年3月31日

第2代 澤谷邦男（工学研究科教授） 平成12年4月1日～平成13年3月31日

第3代 青木國彦（経済学研究科教授） 平成13年4月1日～平成14年3月31日

第4代 坂巻 清（経済学研究科教授） 平成14年4月1日～平成15年3月31日

第5代 大家 清（歯学研究科教授） 平成15年4月1日～平成17年3月31日

入試センター長：

- | | | |
|-----|------------------|----------------------|
| 第1代 | 鴨池 治 (経済学研究科教授) | 平成17年4月1日～平成21年3月31日 |
| 第2代 | 安藤朝夫 (情報学研究科教授) | 平成21年4月1日～平成23年3月31日 |
| 第3代 | 米本年邦 (工学研究科教授) | 平成23年4月1日～平成25年3月31日 |
| 第4代 | 牧野 周 (農学研究科教授) | 平成25年4月1日～平成27年3月31日 |
| 第5代 | 鈴木道男 (国際文化研究科教授) | 平成27年4月1日～平成29年3月31日 |
| 第6代 | 長濱裕幸 (理学研究科教授) | 平成29年4月1日～ |

2 令和5年度 東北大学入学者選抜概要

2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）〈令和4年4月1日現在〉

東北大学の理念

百余年の歴史と輝かしい伝統を有する東北大学は、明治40年（1907）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、優れた教育・研究を展開してきました。本学は未来に向けてこの実績を継承しつつ更なる飛躍を図り、世界をリードするワールドクラスの教育・研究拠点として、世界が直面する困難かつ複雑な課題に挑戦し、人類社会の発展に大きく貢献します。

そのために、学部や大学院、研究所等、全学の総力を結集して、人類社会の未来を担う高い倫理性を備えた国際的リーダーを育成するとともに、世界水準の創造的な研究を展開し、その成果を広く社会へ還元することに努めます。

東北大学の特徴

① 創立以来の三つの理念

創立後すぐに「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を確立し、時代に応じてその内容を一層発展させています。

② 教育環境に恵まれた総合大学

10学部、15研究科、3専門職大学院及び6研究所をはじめとする多数の教育研究組織・施設を擁し、学部・研究科と研究所等のスタッフが一体となって教育を行います（教員約3,000人、学部学生入学定員約2,400人、大学院学生入学定員約2,700人）。

③ 研究大学

国際的な研究成果を多数生み出し、先端的研究と教育を一体的に進める大学です。

④ 積極的な地域連携・産学連携

地域や産業界との間に多様な連携を積極的に発展させています。

⑤ 教育研究のグローバル化

本学は国立大学の中でも最も多い海外協定大学を有する大学の一つであり、活発な教育・研究交流を展開しています。多くの留学生を受け入れるとともに、海外留学を積極的に支援し、グローバルに活躍する人の育成に力を入れています。

東北大学が学部志願者に求める学生像

東北大学では、上記に掲げた理念のもとに、学士課程を通じて、

① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、

② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、

③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人を育成します。

また学士課程教育では、幅広い知識や素養を育成する全学教育科目と専門分野の基盤的知識を習得させる専門教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供し、授業内外での能動的な学習を推進するとともに、学生の自律的学習力を育成します。

このため、東北大学は、上記の本学理念に共感し、

① 21世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志と

② 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志

を抱き、これを実現する固い意志と学問に対する強い好奇心を持つとともに、上記の本学学士課程教育を受けるにふさわしい高水準の学力を備えた学生を求めています。高水準の学力とは、具体的には、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、論理的思考力や問題発見力、分析解決能力、豊かな創造力、発想力、表現力、コミュニケーション能力を有することを指します。さらに倫理性や、学問の課題に主体的にリーダーシップを発揮しながら他の学生と協働して取り組むことができる態度を備えていることを求めます。

東北大学の入試方法（学部）

東北大学が求める学生を選抜するために学部、学科（系）、または、専攻ごとに一般選抜入学試験（一般選抜）、ＡＯ入試（総合型選抜）及び各種の特別選抜入学試験（特別選抜）を実施します。

一般選抜では、５～６教科７科目の大学入学共通テストで幅広い知識・技能を含む基礎学力を評価するとともに、前期日程（全学部）では３教科、後期日程（２学部）では２教科（理学部、経済学部文系入試）又は１教科（経済学部理系入試）の個別学力試験で、本学の学修に適合する思考力・判断力・表現力等を含むより高い学力を測る試験を行い、これらを主たる選抜資料として合格者を判定します。判定においては個別学力試験の成績を重視します。さらに、調査書と対応したチェックリストにより主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を確認するとともに、経済学部後期日程理系入試では経済社会問題への関心と意欲等を、医学部、歯学部については医療人としての適性を問う面接試験を行います。

東北大学を第一志望とする受験者を対象としたＡＯ入試では、高等学校における学業成績や大学入学共通テスト、個別の筆記試験、面接試験や出願書類の審査等による選考を行います。この選考では幅広い知識、技能を含む基礎知識や論理的な思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力等の学力とともに、豊かな人間性や創造力、発想力、倫理性、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、学問に対する好奇心などを評価します。学力については、一般選抜と同等以上の水準を求めます。

特別選抜では、多様な背景を持つ人をそれぞれの特性に基づく試験により評価します。

各学部のアドミッション・ポリシー（略）

2. 2 入学者選抜日程

選抜の種類及び実施学部	一般選抜入学試験 (一般選抜)		AO入試 (総合型選抜)	
	前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期
事項	全学部	経済学部 理学部	文学部 教育学部 法学部 理学部 医学部 歯学部 工学部 農学部	全学部
募集要項の 発 表	11月下旬		8月下旬	11月下旬
入 学 時 期	4月		4月	4月
出 願 受 付	令和5年(2023年) 1月23日(月) ～2月3日(金)		10月14日(金) ～20日(木)	令和5年(2023年) 1月19日(木) ～23日(月)
第1次選考 の 実 施	—		11月5日(土)	—
第1段階選抜 (第1次選考) の 結 果 発 表	令和5年(2023年) 2月13日(月)		11月11日(金)	令和5年 (2023年) 2月7日(火)
個別学力試験 (第2次選考) の 実 施	令和5年 (2023年) 2月25日(土) ～26日(日)	令和5年 (2023年) 3月12日(日)	11月19日(土)	令和5年 (2023年) 2月11日(土)
合 格 者 発 表	令和5年 (2023年) 3月9日(木)	令和5年 (2023年) 3月22日(水)	11月25日(金)	令和5年 (2023年) 2月13日(月)
入 学 手 続	令和5年 (2023年) 3月12日(日) ～15日(水)	令和5年 (2023年) 3月25日(土) ～26日(日)	12月12日(月) ～15日(木)	令和5年 (2023年) 2月14日(火) ～20日(月)

注) AO入試Ⅰ期は、平成25年度入試をもって廃止しました。

参考 大学入学共通テスト 試験日 [<https://www.dnc.ac.jp/>]

本試験： 令和5年(2023年)1月14日(土)～15日(日)

追試験： 令和5年(2023年)1月28日(土)～29日(日)

選抜の種類 及び 実施 学 部 事 項	特 別 選 抜 入 学 試 験 (特 別 選 抜)			
	科学オリン ピック入試	国際バカロレア入試		帰国生徒 入試
	理学部	文学部 理学部 医学部医学科 工学部 農学部	法学部 薬学部	理学部 医学部医学科
募集要項の 発 表	8月下旬	8月下旬		8月下旬
入 学 時 期	4月	4月	4月	4月
出 願 受 付	10月14日(金) ～20日(木)	10月14日(金) ～20日(木)	令和5年 (2023年) 1月19日(木) ～23日(月)	10月14日(金) ～20日(木)
第1次選考 の 実 施	11月5日(土)	11月5日(土)	—	11月5日(土)
第1次選考 の 結 果 発 表	11月11日(金)	11月11日(金)	—	11月11日(金)
選 抜 試 験 (第2次選考) の 実 施	11月19日(土)	11月19日(土)	令和5年 (2023年) 2月11日(土)	11月19日(土)
合 格 者 発 表	11月25日(金)	11月25日(金)	令和5年 (2023年) 2月13日(月)	11月25日(金)
入 学 手 続	12月12日(月) ～15日(木)	12月12日(月) ～15日(木)	令和5年 (2023年) 2月14日(火) ～20日(月)	12月12日(月) ～15日(木)

参考 日本留学試験 試験日：11月13日(日) (第2回) [<https://www.jasso.go.jp/eju/>]

選抜の種類 及び 実施 学 部 事 項	特 別 選 抜 入 学 試 験 (特 別 選 抜)				
	帰国生徒 入試	私費外国人 留学生入試	グローバル 入試Ⅰ期	グローバル 入試Ⅱ期	国際学士コース入試
	工学部	全学部	工学部	理学部 工学部	理学部 工学部 農学部
募集要項の 発 表	8月下旬	8月下旬	8月下旬	8月下旬	5月中旬
入 学 時 期	4月	4月	4月	10月	10月
出 願 受 付	令和5年 (2023年) 1月19日(木) ～23日(月)	令和5年 (2023年) 2月6日(月) ～9日(木)	10月14日(金) ～20日(木)	令和5年 (2023年) 1月19日(木) ～23日(月)	令和5年 (2023年) 1月10日(火) ～18日(水)
第1次選考 の 実 施	—	—	11月5日(土)	—	—
第1次選考 の 結 果 発 表	—	—	11月11日(金)	令和5年 (2023年) 2月16日(木)	令和5年 (2023年) 2月16日(木)
選 抜 試 験 (第2次選考) の 実 施	令和5年 (2023年) 2月11日(土)	令和5年 (2023年) 3月9日(木)	11月19日(土)	令和5年 (2023年) 3月上～中旬	令和5年 (2023年) 3月上～中旬
合 格 者 発 表	令和5年 (2023年) 2月13日(月)	令和5年 (2023年) 3月17日(金)	11月25日(金)	令和5年 (2023年) 4月3日(月)	令和5年 (2023年) 4月3日(月)
入 学 手 続	令和5年 (2023年) 2月14日(火) ～20日(月)	令和5年 (2023年) 3月24日(金) ～27日(月)	12月12日(月) ～15日(木)	令和5年 (2023年) 4月3日(月) ～10日(月)	令和5年 (2023年) 4月3日(月) ～10日(月)

2. 3 入学定員・募集人員

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員											
			一般選抜		ＡＯ入試		特 別 選 抜							
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	科学オリンピック入試	国際バカロレア入試	帰国生徒入試	留学生入試	私費外国人入試	グローバル入試Ⅰ期	グローバル入試Ⅱ期	国際学士コース入試
文学部	人文社会科学	210	147		27	36		若干人		若干人				
教育学部	教育科学科	70	49		14	7				若干人				
法学部	法 学 科	160	112		24	24		若干人		若干人				
経済学部	経済学 経営学	260	文系 147	文系 25		58				若干人				
			理系 10	理系 10										
理学部	数学系	数 学 科	45	27	8	10		若干人	若干人	若干人	若干人			
	物理系	物理学 宇宙地球物理学	119	74	20	15	10	若干人	若干人	若干人	若干人			
	化学系	化 学 科	70	40	13	5	12	若干人	若干人	若干人	若干人		若干人	若干人
	地球科学系	地圏環境科学 地球惑星物質科学	50	29	10	5	6	若干人	若干人	若干人	若干人			
	生物系	生 物 学 科	40	26	4	6	4	若干人	若干人	若干人	若干人			
	小 計		324	196	55	41	32	若干人	若干人	若干人	若干人		若干人	若干人
医学部	医 学 科		105	75		15	12		3					
	保健学科	看護学専攻	70	48		12	10				若干人			
		放射線技術科学専攻	37	25		4	8				若干人			
		検査技術科学専攻	37	25		4	8				若干人			
	小 計		249	173		35	38		医学科は合わせて 3					
歯学部	歯 学 科	53	37		6	10				若干人				
薬学部	創薬科学 薬 学 科	80	56			24		若干人		若干人				

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員										
			一般選抜		AO入試		特 別 選 抜						
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	科学オリンピック 入試	国際バカロ レア入試	帰国生徒入試	私費外国人 留学生入試	グローバル 入試Ⅰ期	グローバル 入試Ⅱ期	国際学士 コース入試
工学部	機械知能・航空工学科	234	164		25	30		若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	15
	電気情報物理工学科	243	170		36	37		若干人	若干人	若干人			
	化学・バイオ工学科	113	79		17	17		若干人	若干人	若干人			
	材料科学総合学科	113	79		17	17		若干人	若干人	若干人			
	建築・社会環境工学科	107	75		17	15		若干人	若干人	若干人			
	小 計	810	567		112	116		若干人	若干人	若干人	若干人		15
農学部	生物生産科学科 応用生物化学科	150	105		23	22		若干人		若干人			若干人
計		2,366	1,599	90	282	377	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	工学部機械知能 ・航空工学科は 合わせて 15

- (注) 1 入学定員の中には、若干人と記載のある入試の募集人員を含みます。
2 全学部が行うAO入試において、合格者数が募集人員に満たない場合には、その欠員分は一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。
3 合格者発表の後、入学手続者が入学定員に満たない場合には、追加合格による欠員補充を行うことがあります。

2 募集方法

学部・学科		募集方法
文学部 教育学部 法学部		・学部単位で募集します。
経済学部		・一般選抜，ＡＯ入試：文系入試・理系入試の２入試単位で募集します。志願する入試区分を一つ選んでください。 ・私費外国人留学生入試：学部単位で募集します。
理学部		・系単位で募集します。 一般選抜： 第２志望の系まで選ぶことができます。 ただし，後期日程については，数学系は第１志望のみの募集とします。 ＡＯ入試・科学オリンピック入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する系を一つ選んでください。
医学部	医学科	・学科単位で募集します。
	保健学科	・専攻単位で募集します。
歯学部 薬学部		・学部単位で募集します。
工学部		・学科単位で募集します。 一般選抜： 第３志望の学科まで選ぶことができます。 ＡＯ入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する学科を一つ選んでください。
農学部		・学部単位で募集します。

3 受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談

受験上及び修学上の配慮を必要とする者は，必ず事前に相談の上，入試課（71 ページ参照）へ申請用紙を請求し，以下の期日までに提出してください。以下に記載のない入試については，各募集要項で定める所定の期日までに提出してください。

申請の内容について，本学において，入学志願者や関係者等との面談を行う場合があります。

なお，所定の期日を過ぎてから申し出があった場合や，相談の内容によっては対応できないことがあります。できるだけ早めに申し出てください。

ＡＯ入試Ⅱ期	令和４年（2022年）	9月16日（金）
ＡＯ入試Ⅲ期	令和４年（2022年）	12月9日（金）
一般選抜	令和４年（2022年）	12月9日（金）

令和5年度入学試験実施状況(総括表・4月入学)

令和5年4月1日

区分	入学定員	募集人員	志願者数	倍率	第1次選考受験者数	第1次選考合格者数	第2次選考受験者数	第2次選考合格者数	入学者数		
一般選抜	文学部	210	147	348	2.4倍	348	348	303	162	158	
	教育学部	70	49	163	3.3倍	163	163	152	53	50	
	法学部	160	112	285	2.5倍	285	285	262	123	115	
	経済学部	260	172	713	4.1倍	713	713	416	192	174	
	文系		20	98	4.9倍	98	98	57	28	24	
	理学部	324	251	1,101	4.4倍	1,101	1,101	701	279	266	
	医学科	116	77	237	3.1倍	237	231	208	85	83	
	保健学科	看護学専攻	70	48	100	2.1倍	100	100	80	49	47
		放射線技術科学専攻	37	25	52	2.1倍	52	52	44	26	25
		検査技術科学専攻	37	25	80	3.2倍	80	75	63	29	27
		保健学科計	144	98	232	2.4倍	232	227	187	104	99
	医学部計	260	175	469	2.7倍	469	458	395	189	182	
	歯学部	53	37	148	4.0倍	148	146	126	37	36	
	薬学部	80	56	179	3.2倍	179	179	154	61	61	
工学部	810	567	1,388	2.4倍	1,388	1,387	1,271	590	575		
農学部	150	105	354	3.4倍	354	354	323	111	108		
一般選抜計	2,377	1,691	5,246	3.1倍	5,246	5,232	4,160	1,825	1,749		
AO入試Ⅱ期	文学部	-	27	95	3.5倍	95	40	40	29	29	
	教育学部	-	14	48	3.4倍	48	26	26	14	13	
	法学部	-	24	77	3.2倍	77	38	38	24	24	
	理学部	-	41	143	3.5倍	142	69	69	34	34	
	医学科	-	15	136	9.1倍	136	55	55	17	17	
	保健学科	看護学専攻	-	12	56	4.7倍	56	22	22	12	12
		放射線技術科学専攻	-	4	29	7.3倍	29	8	8	4	4
		検査技術科学専攻	-	4	17	4.3倍	17	8	8	1	1
		保健学科計	-	20	102	5.1倍	102	38	38	17	17
	医学部計	-	35	238	6.8倍	238	93	93	34	34	
	歯学部	-	6	19	3.2倍	19	11	11	7	7	
	薬学部	-	112	379	3.4倍	378	215	213	112	112	
	工学部	-	23	79	3.4倍	79	40	40	23	23	
	農学部	-	282	1,078	3.8倍	1,076	532	530	277	276	
AO入試Ⅱ期計	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
AO入試Ⅲ期	文学部	-	36	91	2.5倍	91	54	54	40	40	
	教育学部	-	7	29	4.1倍	29	15	15	7	7	
	法学部	-	24	76	3.2倍	76	36	36	24	24	
	経済学部	-	58	113	1.9倍	113	92	92	58	58	
	文系	-	10	18	1.8倍	18	16	16	10	10	
	理系	-	32	107	3.3倍	107	52	52	27	27	
	医学科	-	12	96	8.0倍	96	40	40	12	12	
	保健学科	看護学専攻	-	10	23	2.3倍	23	18	18	14	14
		放射線技術科学専攻	-	8	27	3.4倍	27	18	18	9	9
		検査技術科学専攻	-	8	14	1.8倍	14	13	13	10	10
		保健学科計	-	26	64	2.5倍	64	49	49	33	33
	医学部計	-	38	160	4.2倍	160	89	89	45	45	
	歯学部	-	10	22	2.2倍	21	12	12	9	9	
	薬学部	-	24	68	2.8倍	68	38	38	24	24	
工学部	-	116	328	2.8倍	327	196	195	112	112		
農学部	-	22	50	2.3倍	50	33	33	24	24		
AO入試Ⅲ期計	-	377	1,062	2.8倍	1,060	633	632	380	380		
特別選抜	地域枠入試	-	7(※1)	22	3.1倍	22	15	14	7	7	
	医学部	-	2	4	2.0倍	4	3	3	2	2	
	医学科	-	9	26	2.9倍	26	18	17	9	9	
	地域枠入試計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	科学オリンピック入試	-	若干人	0	-	0	0	0	0	0	
	科学オリンピック入試計	-	若干人	0	-	0	0	0	0	0	
	国際バカロレア入試	文学部	-	若干人	0	-	0	0	0	0	0
		法学部	-	若干人	1	-	-	1	1	1	1
		理学部	-	若干人	2	-	2	1	1	1	1
		医学科	-	※2	0	-	0	0	0	0	0
		薬学部	-	若干人	0	-	-	0	0	0	0
		工学部	-	若干人	1	-	1	1	1	1	1
		農学部	-	若干人	0	-	0	0	0	0	0
		国際バカロレア入試計	-	若干人	4	-	3	2	3	3	3
私費外国人留学生入試	文学部	-	若干人	9	-	-	-	7	4	1	
	教育学部	-	若干人	11	-	-	-	8	4	3	
	法学部	-	若干人	3	-	-	-	3	2	0	
	経済学部	-	若干人	14	-	-	-	12	3	1	
	理学部	-	若干人	11	-	-	-	8	2	1	
	医学科	-	※2	4	-	-	-	4	1	1	
	保健学科	看護学専攻	-	若干人	0	-	-	-	0	0	0
		放射線技術科学専攻	-	若干人	0	-	-	-	0	0	0
		検査技術科学専攻	-	若干人	1	-	-	-	1	0	0
		保健学科計	-	若干人	1	-	-	-	1	0	0
	医学部計	-	若干人	5	-	-	-	5	1	1	
	歯学部	-	若干人	3	-	-	-	3	2	2	
	薬学部	-	若干人	1	-	-	-	1	1	0	
	工学部	-	若干人	17	-	-	-	13	6	3	
農学部	-	若干人	3	-	-	-	2	2	2		
私費外国人留学生計	-	若干人	77	-	-	-	62	27	14		
グローバル入試Ⅰ期	工学部	-	若干人	1	-	1	0	0	0	0	
	グローバル入試Ⅰ期計	-	若干人	1	-	1	0	0	0	0	
帰国生徒入試	理学部	-	若干人	1	-	1	0	0	0	0	
	医学科	-	※2	4	-	4	0	0	0	0	
	工学部	-	若干人	7	-	-	-	7	6	3	
帰国生徒入試計	-	若干人	12	-	5	0	7	6	3		
合計	2,377	2,359	7,506	3.2倍	7,417	6,417	5,411	2,527	2,434		

※1 地域枠入試(医学部医学科)の宮城地域枠のうち宮城県出身者4名以上 ※2 医学部医学科の国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試・帰国生徒入試の入学定員は合計3名

3. 令和4年度東北大学入試広報活動

3. 1 入試広報の概要

令和4年度の入試広報は、以下のような基本方針および内容によって実施した。

基本方針：

- 1) 特色化 対面とともにオンラインを活用してオープンキャンパス、高校との意思疎通を円滑にするきめ細かな高校訪問などの本学の特色ある活動を継続、充実させていく。
- 2) 焦点化 対面及びオンラインによる入試説明会、進学説明会・相談会等の実施方法を絶えず点検し、対象地域や対象層、説明内容等について焦点を明確にし、より効果的に浸透する方法を開拓する。
- 3) 広域化 オンラインを活用して広域型活動を充実させていくとともに、特定対象型（高校訪問、説明会等）においても対象地域を広げる試みを継続する。
- 4) 国際化 マーケティングリサーチに基づき、特定の国・地域に向けた戦略的な入試広報活動を推進する。
- 5) 対面型企画の開催は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ判断する。

内容：

(1) オープンキャンパス

- ・対面とオンラインのハイブリッド方式で実施する。
- ・対面：第1日程 7月27日（水）、7月28日（木）の両日開催
第2日程 9月17日（土）、9月18日（日）の両日開催
※第2日程は、第1日程の開催が困難となった場合
- ・オンライン：6月（見込み）から3月末日までウェブサイトを開設し、オンデマンドコンテンツの掲載及びライブイベントを開催する（リアルタイム型入試相談会等を含む）

(2) 「東北大学案内」の作成・配布

- ・2023年度版を6月に配布予定
- ・2024年度版作成に向けて準備を開始（6月～）
- ・このほか学内の各種映像媒体、学部作成資料を入試広報に活用する。

(3) 本学ウェブサイトによる入試情報提供

- ・「入試センターウェブサイト」により、国内外に向けた有効な情報提供について引き続き検討する。

(4) 東北大学入試説明会（高校教員対象）

- ・全学部が参加する仙台会場のみ対面で実施する。
- ・日程 6月21日（火）
- ・その他、各都市会場での開催は行わず、令和2・3年度同様オンラインで開催する。
- ・広島大学が九州で実施予定の入試説明会に参加する（入試センター対応）。

(5) 東北大学進学説明会・相談会（高校生対象）

- ・東北大学主催（東京、大阪、札幌、静岡）、広島大学主催（福岡）の5会場に対面開催を再開する。
- ・東京会場は2日間に分けて実施する。
- ・大阪、札幌、静岡会場については、他大学（山形大学、茨城大学、群馬大学、名古屋大学、名古屋工業大学）との共催実施を計画する。
- ・福岡会場は、入試センターが対応する。
- ・各会場（福岡会場の除く）の定員は収容率の50%までとし、事前予約制とする。
- ・仙台会場（R1年度より開催）は廃止とする。
- ・オンライン進学説明会・相談会の特設ウェブサイトは廃止し、オンデマンド型コンテンツは、オンライ

ンオープンキャンパスの各学部のページに掲載する。

(6) その他の入試・進学説明会

①地元高校要請入試説明会

・在仙主要高校説明会（5月）及び在仙3大学説明会（9月）は、要請に応じて開催する。

②民間業者等開催の説明会

・主催者からの各種申込みについては入試センターで適宜対応する。

・夢ナビライブ（オンライン）7月9日（土）・10日（日）、10月15日（土）・16日（日）

(7) 高校訪問

・入試センター教員が行う高校訪問（オンライン対応も含む）については、継続して実施する。

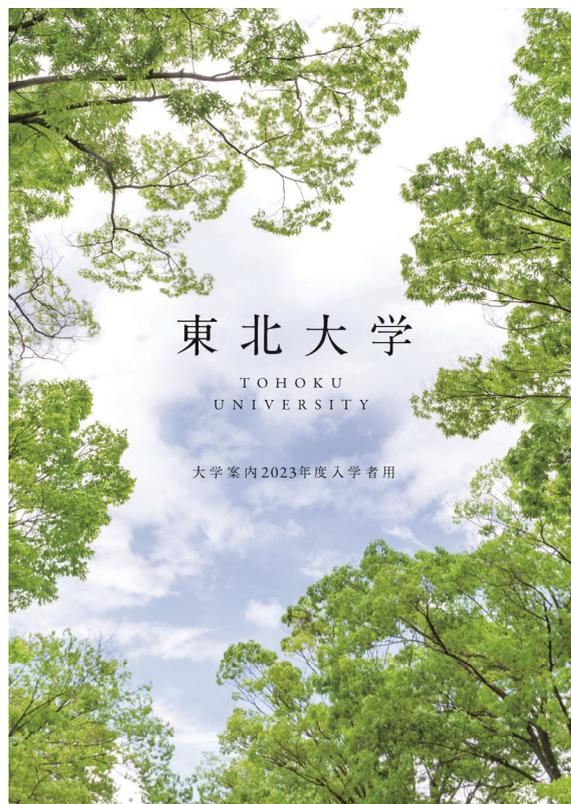
・学部の高校訪問に関して、学部報告に基づく情報提供を引き続き実施する。

3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）

本案内については、入試戦略委員会広報WGにおいて、本学を志望する高校生、その父母および高校教員等を主対象とした、本学に関する第一次資料（最初に見るまとまった印刷物）と位置づけ、各学部の案内資料やウェブサイト等の詳細情報、オープンキャンパス、各種進学説明会等のイベントへの導入的機能を持たせるものとし、本学の特徴・独自性が明確に示される内容としている。

作成した37,000部は、受験希望者等に配布している。

なお、同案内はデータ化され、本学のウェブサイトにも掲載している。



3. 3 オープンキャンパス

(1) オープンキャンパスの概要

①開始時期

東北大学オープンキャンパスは、昭和57年に工学部の金属系3学科が学科公開をしたのが始まりで、平成7年度には工学部の全学科(17学科)が他学部にも先がけてオープンキャンパスを実施した。その後、工学部の他に、理学部及び薬学部が実施していたが、高等学校及び大学内部からの要請もあり、平成11年度より全学部(10学部)において実施している。

平成15年度から大学院研究科や図書館も参加、全学的な事業となっている。

②開催の趣旨

本学入学を志す者を対象として、本学の教育・研究を正しく理解し、適切な進路を選択するに当たっての参考に資するため、本学各学部・研究科等の概要を説明するとともに、教育・研究内容、学内の諸施設等を紹介する目的で実施している。

③名称

平成11・12年度における名称は、「平成〇年度受験生のための東北大学説明会及びオープンキャンパス」であったが、平成13年度より「東北大学オープンキャンパス」に変更した。

④実施部局数

当初は学部のみであったが、平成15年度以降は学部以外にも実施する部局(附属図書館や独立研究科等)が増加し、平成31年度では10学部の他に13の部局が実施している。

⑤開催日程について

平成11～21年度は、7月最後の連続する平日2日間で開催していたが、平成22年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、平成26年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、ただし、30日が月曜日と重なる場合、7月31日(火)及び8月1日(水)に開催することとした。令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、令和4年度は完全予約制により開催した。

⑥オンラインオープンキャンパス開催の経緯

新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスの対面実施が困難となり、これに変わる代替措置として令和2年度に「東北大学オンラインオープンキャンパスサイト」を開設し、令和4年度も開設し、対面とのハイブリッド開催とした(期間:6月下旬～翌年3月31日まで)。

⑦オンラインオープンキャンパスの実施内容

企画の具体的内容については、各学部及びその他の参加部局に一任しており、学部(研究科)概要説明、入試説明会、模擬講義、研究紹介等のオンデマンド配信に加え、ZOOM等ウェブ会議システムを使用してライブイベントを開催した。

⑧本学入学者とオープンキャンパス参加との関係

「令和4年度東北大学新入学者対象アンケート」(令和4年度入学者2,449名中2,388名が回答。回答率97.5%)の結果によると、入学者全体のうち、高校在学中に本学のオープンキャンパス(オンライン含む)参加経験率50%台を維持し、大幅な減少はみられなかった(東北地方に所在する高校出身者では91%程度)。また、入学者のうちAO入試受験者の48%がオープンキャンパス参加経験を有しており、オープンキャンパスは進路決定に多大な影響を与えている。

(2) 対面オープンキャンパスのデータ (令和4年度)



令和4年度 対面オープンキャンパス

参加者数 (確定)

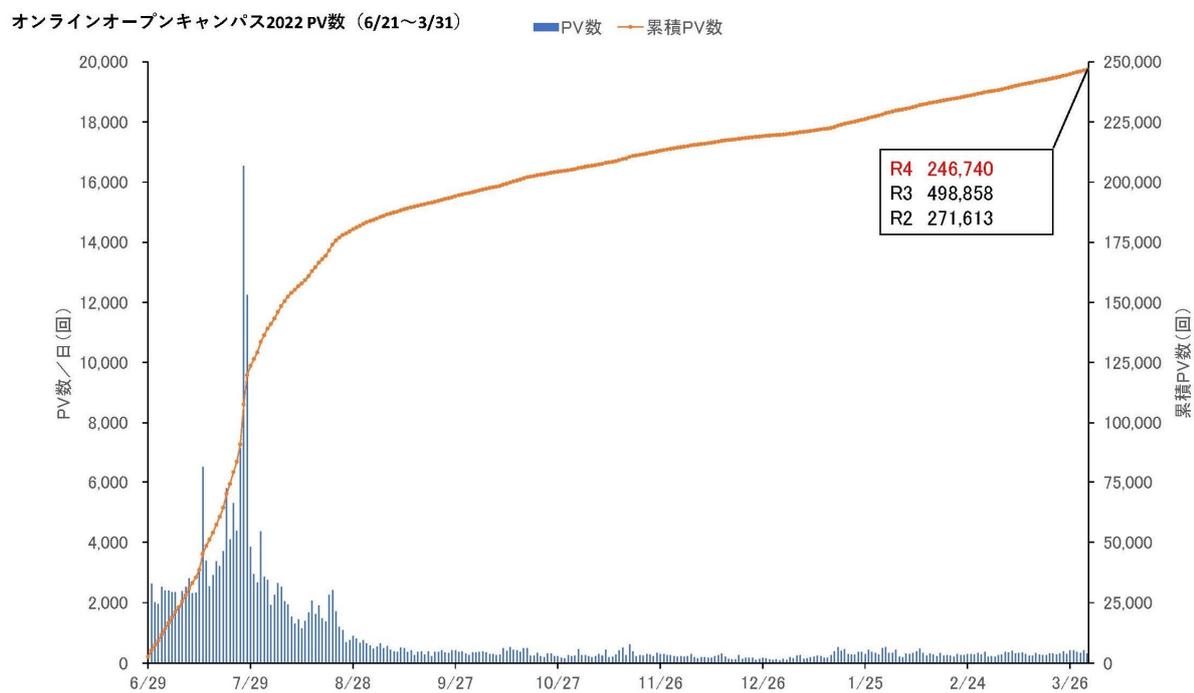
※()内の数字は定員数

学部・学科等	7月27日		7月28日		参加者数計	参加率	主なプログラム		
	AM	PM	AM	PM					
	1ブロック	2ブロック	3ブロック	4ブロック					
文学部	189(215)	146(170)	136(175)	149(175)	620(735)	84.3%	模擬講義/ 研究室紹介/ 相談会・説明会/他		
教育学部	22(24)	21(24)	23(24)	22(24)	88(96)	91.7%	CPツアー		
法学部	185(218)	176(218)	181(218)	187(218)	729(872)	83.6%	模擬講義/ 他		
経済学部	62(80)	67(80)	64(80)	63(80)	256(320)	80.0%	相談会・説明会/ 模擬講義/ 他		
理学部	数学・物理学科	35(40)	38(40)	34(40)	32(40)	139(160)	410(480)	85.4%	模擬講義/ CPツアー
	化学・生物学科	32(40)	35(40)	32(40)	36(40)	135(160)			
	宇宙地球物理(地球物理・天文) ・地学ブロック	33(40)	33(40)	32(40)	38(40)	136(160)			
医学部	医学科	73(90)	65(90)	75(90)	79(90)	292(360)	81.1%	模擬講義/ 学科紹介/ 学生交流	
	保健学科	140(180)	128(180)	139(180)	118(180)	525(720)	72.9%	模擬講義/ 学生相談会/ 専攻紹介/ 実習体験/他	
歯学部	23(30)	21(30)	20(30)	22(30)	86(120)	71.7%	模擬講義/ 相談会・説明会/ 他		
薬学部	53(60)	53(60)	49(60)	58(60)	213(240)	88.8%	相談会・説明会/ 模擬講義/ CPツアー		
工学部	工学部	76(100)	86(100)	58(100)	23(80)	243(380)	1,961 (2,538)	77.3%	模擬講義/ 相談会・説明会 模擬講義/ 他 模擬講義/ 研究室紹介 研究室紹介/ 実習体験 相談会/ 模擬講義/ 実習体験/ CPツアー/ 研究室紹介 相談会/ 研究室紹介/ CPツアー 模擬講義/ 研究室紹介
	機械知能・航空工学科	105(120)	97(120)	103(120)	56(70)	361(430)			
	電気情報物理工学科	81(100)	85(100)	90(100)	87(100)	343(400)			
	化学・バイオ工学科	48(60)	56(90)	68(60)	68(90)	240(300)			
	材料科学総合学科	144(192)	148(192)	135(192)	130(192)	557(768)			
	建築・社会環境工学科	45(50)	45(50)	43(50)	38(50)	171(200)			
技術社会システム専攻	-	24(30)	-	22(30)	46(60)				
農学部	129(180)	133(180)	119(180)	119(180)	500(720)	69.4%	相談会・説明会/ 模擬講義/ 実習体験/ CPツアー		
合計	1,475 (1,819)	1,469 (1,834)	1,389 (1,779)	1,347 (1,769)	5,680 (7,201)	78.9%			

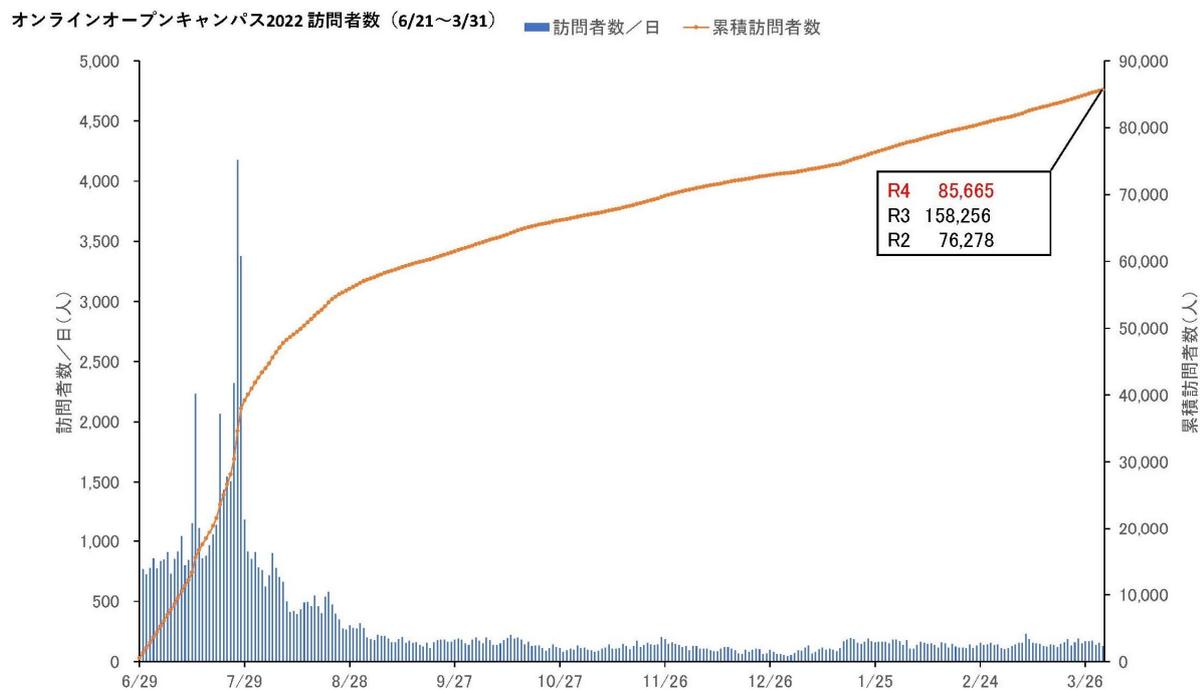
延べ申込み者数	26,378名	倍率	3.6倍
---------	---------	----	------

(3) オンラインオープンキャンパスのデータ (令和4年度)

総PV数



総訪問者数



3. 4 教員対象入試説明会（令和4年度）

(1) 入試説明会（仙台会場）

- 対象地域：東北及び北関東3県の高校教員を対象
- 時期：6月21日（火）13:00～16:40
- 会場：仙台国際センター 2F橋 2F萩 3F白樫1 3F白樫2
（仙台市青葉区青葉山 265-2211）
- プログラムおよび参加者数：211名（142名） 事前予約制で開催

（ ）はR3年度実績

	会場1 (2F橋)	会場2 (2F萩)	会場3 (3F白樫1)	会場4 (3F白樫2)	2F・3F ロビー
13:00	全体会 理事（教育・学生支援担当） 挨拶 入試全体説明	—	—	—	—
13:40	190（118）				
13:50	理学部	文学部	医学部医学科	全学教育	個別相談 コーナー 27 学部等：19 入試センター：8
14:25	72（46）	66（45）	46（31）	23（—）	
14:35	工学部	教育学部	医学部保健学科	キャリア支援	
15:10	87（65）	57（42）	47（46）	10（4）	
15:20	農学部	法学部	歯学部	特別支援	
15:55	65（51）	70（38）	30（15）	13（2）	
16:05	農学部	経済学部	薬学部	ダイバーシティ を推進する東北 大学	
16:40	72（51）	80（48）	61（33）	10（—）	

(2) オンライン入試説明会

参加状況

(1) 概要

	日程 (9日間)	実施回数 (2回/日)	定員 (20名/回)	申込者数	参加者数	充足率
R4	6/8～20	18回	360名	119名	100名	27.8%
R3	6/14～24	18回	360名	216名	174名	48.3%

(2) セッション別の参加状況

月日	曜日	実施時間	セッション	申込数	参加数	出席率	充足率
6/8	水	13:05～14:05	セッション①	12	11	91.7%	55.0%
		15:30～16:30	セッション②	6	5	83.3%	25.0%
6/9	木	15:30～16:30	セッション③	7	6	85.7%	30.0%
		16:00～17:00	セッション④	9	7	77.8%	35.0%
6/10	金	13:05～14:05	セッション⑤	11	8	72.7%	40.0%
		16:00～17:00	セッション⑥	6	6	100.0%	30.0%
6/13	月	13:05～14:05	セッション⑦	12	9	75.0%	45.0%
		15:30～16:30	セッション⑧	6	4	66.7%	20.0%
6/14	火	13:05～14:05	セッション⑨	8	7	87.5%	35.0%
		15:30～16:30	セッション⑩	5	5	100.0%	25.0%
6/15	水	15:30～16:30	セッション⑪	3	2	66.7%	10.0%
		16:00～17:00	セッション⑫	2	2	100.0%	10.0%
6/16	木	13:05～14:05	セッション⑬	3	2	66.7%	10.0%
		15:30～16:30	セッション⑭	4	4	100.0%	20.0%
6/17	金	15:30～16:30	セッション⑮	3	2	66.7%	10.0%
		16:00～17:00	セッション⑯	4	4	100.0%	20.0%
6/20	月	15:30～16:30	セッション⑰	5	5	100.0%	25.0%
		16:00～17:00	セッション⑱	13	11	84.6%	55.0%

*ウェブ会議システムを使用。

*入試センター教員が担当。

3. 5 各種入試説明会状況（令和4年度）

月日	入試説明会等（本学主催以外）	高校等個別訪問 （入試センター教員）
4月13日	東京都立小松川高校1年生対象進路講演会	
5月9日	仙台市六校会 東北大学入試説明会	
5月14日	北東北5校進学連絡協議会講演	
5月29日	大学入試改革シンポジウム in 富山	
6月13日		愛知県滝高等学校（愛知県）、東海高等学校（愛知県）、鳥取県立鳥取西高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、鳥取県立倉吉東高等学校
6月17日	九州国際大附属高校入試説明会（オンライン）	
6月22日		福島県立川俣高等学校
6月25日		静岡県立浜松北高等学校
6月27日		静岡県立沼津東高等学校、静岡県立富士高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡県立掛川西高等学校
6月29日		青森県立田名部高等学校
6月30日		青森県立三本木高等学校、青森県立青森高等学校
7月1日		北海道室蘭栄高等学校、立命館慶祥高等学校（北海道）
7月2日		北海道札幌白陵高等学校
7月7日	秋田県立秋田高等学校説明会	秋田県立横手高等学校、秋田県立秋田北高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立能代高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校
7月8日	栃木県立石橋高校国立大学合同進学説明会	
7月9日	夢ナビライブ 2022in Summer（オンライン）	
7月10日		
7月15日	岩手県立花巻北高校、岩手県立黒沢尻北高校、岩手県立一関第一高校説明会	
7月19日		群馬県立高崎高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立前橋高等学校、都立八王子東高等学校、神奈川県立翠嵐高等学校、埼玉県立浦和高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立戸山高等学校、茨城県立竹園高等学校、茨城県立並木中等教育学校
7月20日	群馬県立太田女子高校国立3大学合同説明会（オンライン）	

月日	入試説明会等（本学主催以外）	高校等個別訪問 （入試センター教員）
7月25日	青森県立八戸北高校難関大学希望生徒対象進路講演会（2年）	
8月19日	山形県立山形東高校1年生対象全体会講演 茨城県立竹園高校入試研究会	
8月22日		青森県立大湊高等学校
8月27日	茨城高校大学入試説明会	
9月10日	大宮開成高校校内進路ガイダンス（オンライン）	
9月19日	国公立大/有名私立大学進学相談会（金沢市）	
9月20日		石川県立小松高等学校, 石川県立金沢二水高等学校
9月21日		香川県立観音寺第一高等学校
9月22日	宮城県三大学合同説明会	
10月3日	山形県立米沢興譲館高校大学説明会	
10月6日	茨城県立日立第一高校説明会（オンライン）	
10月9日	河合塾仙台校東北大学進学説明会・相談会	
10月14日	山梨学院高校大学説明会	
10月15日		
10月16日	夢ナビライブ 2022in Autumn（オンライン）	
10月18日	青森県立八戸北高校出張講義	
10月24日	青森県立八戸高校2学年進路講演会	
10月29日	河合塾大宮校秋期ガイダンス	
11月30日	埼玉県立大宮高校大学説明会 神奈川県進学重点校連絡協議会（オンライン）	
12月15日	北海道北見北斗高校進路講演会	
2月4日	青森県未来を紡ぐ教員勉強会	

3. 6 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会・相談会 [主催：東北大学]

(1) 目的・対象

目的 従来学校を通じた入試広報が困難であった首都圏、東海地方及び関西圏・北海道において、高校生・保護者に直接本学の紹介、入試の説明を行うことにより、同地方の志願者増を図る。

対象 高校生、高校卒業者、保護者及び高校教員を対象とする。

新型コロナウイルス感染症の影響により、完全予約制により収容定員 50% で実施した。

(2) 実施概要

①大阪会場

期日：令和4年6月12日（日）12：30～16：50

会場：グランフロント大阪

・プログラム及び参加者数

()はR1年度実績

講演会場1 C03+C04 [96]	講演会場2 C05 [40]	講演会場3 C07 [35]	講演会場4 C06 [28]	個別相談
東北大学入試解説 74 (175)	名古屋工業大学 大学紹介と大学教育 の魅力 13 (-)			東北大学： 55 (96) 入試相談 11 (18) 文学部 7 (2) 教育学部 1 (0) 経済学部 2 (-) 理学部 5 (10) 医学科 2 (12) 歯学部 1 (2) 薬学部 1 (4) 工学部 13 (19) 農学部 2 (6) 学生相談 10 (10)
名古屋大学入試解説 43 (-)	群馬大学 大学概要説明 3 (-)	歯学部 4 (6)	薬学部 8 (14)	
医学部医学科 6 (40)	名古屋大学 講演①「農学系教員 による講演と説明」 8 (-)	文学部 13 (17)	住居・奨学金等 説明 20 (21)	
理学部 34 (68)	名古屋大学 講演②「文学系教員 による講演と説明」 0 (-)	教育学部 6 (4)	住居・奨学金等 説明 26 (10)	
工学部 36 (75)	名古屋大学 講演①「農学系教員 による講演と説明」 2 (-)	経済学部 4 (-)	住居・奨学金等 説明 11 (3)	名古屋大学： 9 (-) 群馬大学： 3 (-) 名古屋工業大学： 9 (-)
学生による 東北大学紹介 36 (70)	名古屋大学 講演②「文学系教員 による講演と説明」 0 (-)	農学部 10 (26)	住居・奨学金等 説明 0 (10)	合計 76 (112)

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
124名 (256名)	357名 (725名)	76名 (125名)	433名 (850名)
	東北大学288名 (549名)	東北大学55名 (109名)	東北大学344名 (658名)

東北大学：学部教員 11名（うち工3名） 学生2名（理・工） 学生支援課2名

理事（教育・学生支援担当）1名，入試センター教員5名，入試課5名

名古屋大学：3名 群馬大学：3名 名古屋工業大学：2名

②静岡会場

期日：令和4年6月27日（日）12：30～16：50

会場：グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）

・プログラム及び参加者数

（ ）はR1年度実績

講演会場1 (会議ホール風)	講演会場2 (1001-1)	講演会場3 (1002)	講演会場4 (1003)	講演会場5 (905)	講演会場6 (906)	個別相談会場
東北大学 入試説明 128 (165)	名古屋 工業大学 24 (-)	-	-	-	-	東北大学 70(56) 入試相談 9(8) 文学部 3(3) 教育学部 2(0) 法学部 3(2) 経済学部 5(2) 理学部 10(5) 歯学部 1(1) 薬学部 2(1) 工学部 15(11) 農学部 5(6) 学生相談 8(6) 生活相談 7(10)
名古屋大学 全体説明 113 (-)	山形大学 18 (14)	東北大学 歯学部 4 (5)	茨城大学 2 (-)	東北大学 経済学部 11 (10)	群馬大学 8 (-)	名古屋大学 8(-) 茨城大学 4(-) 群馬大学 8(-) 山形大学 4(-) 名古屋工業大学 5(-)
東北大学 農学部 19 (27)	名古屋大学 23 (-)	東北大学 教育学部 13 (8)	茨城大学 13 (-)	-	群馬大学 10 (-)	合計 99(76)
東北大学 理学部 48 (61)	名古屋大学 37 (-)	東北大学 法学部 18 (12)	茨城大学 9 (-)	-	群馬大学 10 (-)	
東北大学 工学部 75 (85)	名古屋大学 19 (-)	東北大学 文学部 12 (6)	群馬大学 9 (-)	-	茨城大学 5 (-)	
学生による 東北大学紹介 75 (49)	名古屋大学 1 (-)	東北大学 薬学部 18 (16)	群馬大学 2 (-)	-	茨城大学 1 (-)	

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
247名 (227名)	725名 (702名)	99名 (76名)	824名 (778名)
(うち、東北大学)	421名 (454名)	70名 (56名)	491名 (510名)

東北大学スタッフ 26名：学部等教員11名（文・教・法・経・理・歯・薬・工〔3〕・農）

学生2名（法・工），学生支援課2名，

理事（教育・学生支援担当）1名，入試センター5名，入試課5名

他大学参加スタッフ5名：名古屋大学9名（教員），茨城大学3名（教員），群馬大学3名（教員），

山形大学1名（教員），名古屋工業大学2名（教員）

③札幌会場

期日：令和4年7月3日（日）12：30～16：50

会場：かでの2・7

・プログラム及び参加者数

()はR1年度実績

講演会場1	講演会場2	講演会場3	講演会場4	個別相談会場
東北大学 入試解説 59 (300*)	群馬大学 大学概要説明 3 (-)	-	-	東北大学 34(82)
名古屋大学 全体説明 24 (-)	群馬大学 研究紹介 3 (-)	東北大学 文学部 5 (27)	東北大学 歯学部 2 (9)	入試相談 4(10) 文学部 3(2) 教育学部 1(3) 法学部 0(3) 経済学部 1(4) 理学部 3(7) 医学科 1(8) 歯学部 0(1) 薬学部 3(5) 工学部 8(14) 農学部 3(3) 学生相談 3(10) 生活相談 4(12)
東北大学 医学部 15 (50)	名古屋大学 講演①「理学系教員に よる講演と説明 15 (-)	東北大学 教育学部 3 (32)	東北大学 農学部 11(21)	名古屋大学 2(-) 茨城大学 2(-) 群馬大学 1(-)
東北大学 理学部 19(120)	名古屋大学 講演②「教育・心理系 教員による講演と説明 4 (-)	茨城大学 3 (-)	東北大学 薬学部 10(53)	合計 39(124)
東北大学 工学部 19(106)	名古屋大学 講演①「理学系教員に よる講演と説明 1 (-)	東北大学 法学部 7(36)	-	
学生による 東北大学紹介 37(88)	名古屋大学 講演②「教育・心理系 教員による講演と説明 0 (-)	東北大学 経済学部 4(36)	-	

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
95名 (376名)	244名 (1,416名)	39名 (124名)	283名 (1,540名)
(うち、東北大学)	194名 (878名)	34名 (82名)	228名 (960名)

東北大学スタッフ 27名：学部等教員11名（文・教・法・経・理・医医・歯・薬・工[2]・農）
 学生4名（理・医医・工[2]），学生支援課2名
 理事（教育・学生支援担当）1名，入試センター4名，入試課5名
 他大学参加スタッフ7名：名古屋大学3名（教員3名），茨城大学2名，群馬大学2名，

④東京会場

期日：令和4年7月17日（日）・18日（月・祝）12：30～16：50

会場：学術総合センター 一橋講堂および1階特別会議室，2階中会議場，会議室

・プログラム及び参加者数 ()はR1年度実績 ※R1は1日のみ開催 (R1..7.14)

■17日（日）

講演会場1	講演会場2	講演会場3	個別相談会場
入試解説 180 (※1)	入試解説 95 (※1)		入試 29(64)
学生による大学紹介 145 (※2)	学生による大学紹介 111 (※2)	住居・奨学金等説明 40※3	文学部 8(13) 教育学部 5(3)
医学部医学科 91 (216)	法学部 52 (81)	住居・奨学金等説明 61	法学部 7(19) 経済学部 11(16)
歯学部 20 (40)	教育学部 27 (31)	住居・奨学金等説明 45	医学科 16(30) 保健学科 9(10)
経済学部 57 (132)	薬学部 69 (70)	ダイバーシティを推進 する東北大学 9 (—)	歯学部 3(9) 薬学部 7(13)
文学部 36 (122)	医学部保健学科 32 (42)	住居・奨学金等説明 16	東北大生 22(28) 生活支援 24(44) キャリア 4(10) 特別支援 0(4)
			合計 145 (263)

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
364名	1,086名 (延べ数)	145名	1,231名 (延べ数)

東北大学参加者：理事（教育・学生支援担当）1名 副学長（広報・ダイバーシティ担当）1名
学部教員8名（文・教・法・経・医医・医保・歯・薬 各1）

キャリア支援室教員1名 特別支援室教員2名（うち部局派遣1） 学部学生3名（文・経・歯）

入試センター教員10名 入試課10名 学生支援課4名（うち部局派遣2）

(参考) R1年度実績

※1...入試解説:1,026名（会場1：548・会場2：407・会場3：71）

※2...学生による大学紹介:1,036名（会場1：558・会場2：407・会場3：71）

※3...住居・奨学金等説明計（R4両日計）369名（171/198）（R1：348）

■ 18日 (月・祝)

講演会場 1	講演会場 2	講演会場 3	個別相談会場
入試解説 229	入試解説 161	—	
学生による大学紹介 182	学生による大学紹介 162	住居・奨学金等説明 40	入試 27
理学部 118 (475)	農学部 103 (129)	住居・奨学金等説明 61	理学部 18(35)
理学部 90	—	住居・奨学金等説明 68	工学部 64 (67)
工学部 220 (458)	ダイバーシティを推進 する東北大学 27 (—)	住居・奨学金等説明 16	農学部 13(21)
工学部 25	—	住居・奨学金等説明 13	東北大生 37
			生活支援 21
			キャリア 4
			特別支援 0
			合計 185 (123)

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
461名	1,515名 (延べ数)	185名	1,700名 (延べ数)

東北大学参加者：理事（教育・学生支援担当）1名 副学長（広報・ダイバーシティ担当）1名
 学部教員7名（理2（うち部局派遣1）・工4（うち部局派遣2）・農1）
 キャリア支援室教員1名 特別支援室教員2名（うち部局派遣1）
 学部学生3名（理・工・農） 工学部学生1名（学部派遣:相談会場）
 入試センター教員10名 入試課10名 学生支援課4名（うち部局派遣2）

■ 合計

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
825名 (1,180名)	2,601名 (延べ数) (4,206名)	330名 (386名)	2,931名 (延べ数) (4,592名)

⑤福岡会場

期日：令和4年8月8日（日）12：30～16：50

会場：アクロス福岡西館6階会議室

・プログラム及び参加者数

講演会場1	個別相談会場
東北大学 大学概要と入試の説明 19	東北大学 5 広島大学 20
広島大学① *1 大学概要と入試の説明 20	
東北大学 医学部・歯学部の 概要と入試の説明 2	
広島大学② *1 大学概要と入試の説明 5	

*1: 広島大学の講演内容は同一内容

参加者実数	講演参加者	個別相談参加者	講演・個別相談合計
33名(44名)	46名	25名	71名
(うち,東北大学)	21名 (115名)	5名 (25名)	26名 (140名)

東北大学参加者 3名：入試センター教員3名

3. 7 高校の要請による講師派遣状況（令和4年度実績）

日付	高校名	参加学部等											
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農
4/13	小松川高校	◎											
5/14	青森高校	●											
6/1	秋田高校		◎	●	◎	●	●	●	●		●	●	●
6/18	國學院栃木高校					●						●	
6/18	灘中学・高校											●	
6/21	秋田南高校		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6/22	東京都立国分寺高校											●	
6/24	川和高校											◎	
6/29	高志高校											●	
6/30	青森高校	●											
6/30	東北学院高校											●	
7/5	一関第一高校											◎	
7/6	木更津高校	●											
7/8	石橋高校	●											
7/8	原町高校											●	
7/20	太田女子高校	◎											
7/20	浦和高校（市立）											●	
7/22	松江北高校											●	
7/22	真岡高校											●	
7/22	清水南高校											◎	
7/22	大館鳳鳴高校											●	
7/23	愛光高校											◎	
7/25	長野県上田高校											●	
7/25	八戸北高校	●											
7/26	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校											●	
7/29	国際情報高校											●	
7/30	黒沢尻北高校											●	
8/5	安積高校											●	
8/9	河合塾仙台校				●								
8/19	竹園高校	●											
8/19	山形東高校	●	●	◎	●	●	●	●				●	●
8/19	横手高校											●	
8/23	新潟高校				●							●	
8/25	川越女子高校											●	
8/27	茨城高校	●											
8/29	宮城県仙台二華高校											●	
9/1	郡山高校											●	

日付	高校名	参加学部等												
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農	
9/5	藤枝東高校												●	
9/8	掛川西高校						●							
9/8	八戸高校		◎	◎	◎			◎	◎				◎	◎
9/8	弘前中央高校												●	
9/10	大宮開成高校	◎												
9/12	出雲高校												●	
9/13	三本木高校												●	
9/14	磐田南高校		●											
9/14	酒田東高校												●	
9/15	青森東高校				●								●	
9/15	五所川原高校												●	
9/15	湯沢高校												●	
9/16	磐田南高校												●	
9/17	長野県屋代高校												●	
9/20	佐倉高校												●	
9/21	観音寺第一高校	●												
9/21	並木中等教育学校						●						●	●
9/26	寒河江高校									◎				
9/28	小松高校												●	
9/29	水戸第一				●								●	
10/1	安積高校				●	●	●					●	●	●
10/3	米沢興譲館高校	●	●				●	●	●			●	●	●
10/3	穎明館高校												●	
10/4	甲府南高校												●	
10/6	磐城高校		◎		◎		●	●	◎		◎		●	●
10/6	日立第一高校	◎												
10/6	盛岡第二高校		●				●							
10/6	磐城高校												●	
10/6	緑岡高校												●	
10/11	春日部高校												●	
10/13	福岡高校		●											
10/14	山梨学院	●												
10/14	前橋女子高校												●	
10/15	沼津東高校												●	
10/17	甲府東高校						●							
10/18	八戸北高校	●					●		●				●	●
10/19	富士高校												●	
10/20	西春高校				◎								◎	

日付	高校名	参加学部等											
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農
10/20	富岡高校											●	
10/21	弘前高校				◎	●				●		●	●
10/21	矢板東高校						●						
10/22	土浦第一高校		●									●	
10/24	静岡市立高校											●	
10/24	八戸高校	●											
10/24	三島北高校											●	
10/24	静岡市立高校											●	
10/26	橘高校				●							●	
10/26	四日市高校											●	
10/27	青森高校		●									●	
10/27	北海道函館中部高校											●	
10/27	宇都宮高校											●	
10/27	中央中等教育学校											●	
10/29	長野高校				◎								
10/31	広島市立舟入高校											●	
11/1	沼田高校											●	
11/2	新潟南高校											◎	
11/4	会津学鳳高校											●	
11/4	広島市立基町高校											●	
11/4	北海道札幌東高校											●	
11/8	市立札幌旭丘高校											●	
11/8	前橋高校											◎	
11/8	竹園高校				◎						●	●	
11/9	竹園高校		◎				●						
11/9	広島高校					●		●					
11/10	竹園高校			◎									
11/11	下妻第一高校											●	
11/11	仙台育英学園高校											●	
11/12	土浦第一高校				●								
11/12	豊岡高校											●	
11/12	会津高校											●	
11/15	座間高校				●								
11/16	東京都立武蔵高校											●	
11/18	宮城第一高校			●									
11/18	宇都宮東高校											◎	
11/25	千葉高校											●	
11/29	船橋高校											◎	

日付	高校名	参加学部等											
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農
11/30	大宮高校	●											
12/3	五条高校											●	
12/3	前橋高校											●	
12/9	東京都立青山高校											◎	
12/15	北見北斗高校	●											
12/15	大宮開成高校											◎	
12/16	清水東高校											◎	
12/19	青山高校											◎	
12/21	盛岡第一高校	●											
12/22	龍野高校						◎						
1/21	宇都宮高校						●						
1/31	宮城第一高校			●									
2/17	ふたば未来学園高校				◎							●	
3/4	仙台育英高校								●				
3/14	桐蔭高校											●	
3/17	栃木高校											●	
3/17	ふたば未来学園高校			◎									●
3/17	盛岡第一高校											●	
3/22	栃木高校			●									●

入:入試センター 文:文学部 教:教育学部 法:法学部 経:経済学部 理:理学部 医:医学部医学科 保:医学部保健学科 歯:歯学部 薬:薬学部
工:工学部 農:農学部

●:対面開催 ◎:オンライン開催

3.8 広報活動の成果¹⁾

3.8.1 大学における入試広報活動の重要性

ここ 20～30 年で入試広報²⁾ は日本の大学にとって欠かせない重要な活動となった。1985 (昭和 60) 年の臨時教育審議会第 1 次答申では、偏差値中心の進路選択からの脱却という文脈で、大学入試センターの業務として受験生に対して大学情報を仲介する機能が位置付けられた。すなわち、大学情報の発信は主体的な進路選択を促すための公共的な活動という性格を期待されていた。さらに、大学側の姿勢も受験生への情報提供に対して後ろ向きだと批判されていた。

ところが、1990 年代前半に日本の 18 歳人口はピークに達し、その後は急速に減少へと向かった。一方、大学数と募集人員は相変わらず拡大基調だったことから、入試広報を取り巻く情勢は一変した。大学が行う入試広報活動は、社会貢献というよりも受験生の獲得に向けた PR と位置付けられることになり、各大学が生き残りをかけて必死に取り組むべき活動となった。

3.8.2 東北大学の入試広報活動に対する外部からの評価

本学の入試広報活動は高校からの評価が高いことが知られている。朝日新聞出版の「大学ランキング」の「高校からの評価ランキング」における「広報に熱心な大学³⁾」ランキングでは常に上位に位置してきた (例えば、朝日新聞出版, 2020)。2016 年版で名だたる私立大学を抑えて全国 1 位となり、その後もその立場を維持してきた。本学に対する高評価は偶然の産物ではない。効果的な広報活動を継続するための組織上の工夫とそれを維持するバックボーンとなる調査研究活動が支えとなった結果でもある。

さらに、『大学ランキング 2022 年版』(朝日新聞出版, 2021) では、全国の国公私立大学 768 校の学長・総長を対象としたアンケートの結果、「コロナ禍で優れた対応を行っていると思う大学」ランキングにおいて、東北大学は早稲田大学と並び第 1 位に選ばれている。この結果は、入試広報活動に限った評価ではないものの、コロナ禍においていち早く入試広報活動のオンライン化に取り組み、受験生・高校生やその保護者、そして高校教員に向けて積極的な情報発信を試みたことも、高評価の一因となり得たのではと自負するところである。

3.8.3 新型コロナウイルス感染症の影響による入試広報活動の転換

2020 (令和 2) 年 1 月下旬頃から世界中で新型コロナウイルス感染症 (以下、「COVID-19」と表記する) が猛威を振るっている。COVID-19 の脅威は人々の日常を大きく変えた。東北大学の入試広報活動も大きな転換期を迎えている。

寺下・村松 (2009) は、大学の教育・研究や入試情報等を印刷物やホームページを通じて受験生に伝える広報活動を「発信型広報」、受験生と直接対話する広報活動を「対面型広報」、オープンキャンパス等、学内に受験生を招き入れる広報活動を「学内型広報」と分類した。東北大学が得意としてきた入試広報活動は対面型広報と学内型広報だったが、いずれも「密閉」「密接」「密集」という、COVID-19 の伝染を加速させる「3 密状態」を回避するのは難しい。結果的に 2021 (令和 3) 年度入試に向けた大学入試広報活動は、COVID-19 の蔓延によって著しく制限を受けることとなった。

そこで、急遽、各大学とともに競って取り組んだのが入試広報活動のオンライン化である。

従来の発信型広報が基本的に大学からの一方的な情報提供であったのに対し、一部にテレビ会議システムを通じた双方向のやり取りが含まれることが特徴である。期せずして、従来の枠組にまたがる特徴を有するハイブリッド型の目新しい入試広報活動の黎明期が訪れた。

3.8.4 東北大学における入試広報活動の概要

3.8.4.1 東北大学における入試広報活動組織とその特徴

本学では、全学的な入試広報活動は学部入試関連の委員会で所掌されている。1999（平成 11）年に設置された東北大学アドミッションセンター⁴が中核となり、当該委員会で定めた計画に従って毎年の入試広報活動が展開されてきた。入試広報活動が入試の一環と位置付けられていることから、入試広報の目的が広い意味での学生募集であると明確に意識される組織構造になっている。本学では学部入試設計の一翼を担う活動として公認されていると言えるだろう。

本学では学部入試を教育の一環と捉えている。様々な入試広報活動を通じて、本学第1志望の受験生に対して、一般選抜前期日程試験を目標に据えつつ、そこに至るまでのステップとして「第1志望の受験生のための特別な入試機会」であるAO入試の受験を促している。ひいては、それ以前に各種の入試広報活動を通じて本学の魅力を伝え、その活動に触れることで第1志望の受験生を育成、獲得するというスキームが出来上がっている（倉元, 2011）。入試広報は受験生という特殊なクライアントに対する広報活動であるが、単なる大学広報の一部と認識すると焦点が曖昧になる。入試広報活動を入試の一環として位置づけることのメリットは大きい。

事務組織の面でも全学的な広報を担うセクションとは独立に、当該委員会を所掌する部署として「教育・学生支援部入試課入試広報係」が置かれている。入試広報活動は委員会活動の一環として同係が管轄する。結果的に、受験生とその関係者が必要とする情報発信を機能的かつ効率的に遂行できる体制が整っている。

3.8.4.2 入試広報研究と学内広報の役割

入試広報の難しさは業務が際限なく広がってしまうことにある。学生確保のために惜しげもなく大学の資源を投入する入試広報活動を「全力投球型」とすると、費用対効果を重んじて活動を制御しつつ広報効果を求める入試広報活動は「省エネ型」と位置付けられる。予算や人員、時間が有限である以上、全力投球型の入試広報活動は総体として大学の活動を脅かし、機能不全に陥らせるリスクがある。注目を浴びる時期があっても長期間継続することはできない。本学の入試広報が長期に渡って高評価を受けてきた背景には、組織面の特徴と同時に持続可能な「省エネ型」の広報活動の設計と、大学全体として効率的な入試広報を実施するために欠かせない調査研究活動の存在がある。

東北大学アドミッションセンターおよび後継の入試開発室では、本学の機関研究として広報活動に関する研究成果の発信が断続的に行われてきた（鈴木・夏目・倉元, 2003; 倉元・三原・小野寺・鈴木, 2005; 倉元・山口・川又, 2007; 倉元, 2007, 2008; 倉元・泉, 2014; 久保・南・檜田・宮本, 2021a, b; 久保・宮本, 2021, 2022）。それと同時に必ずしも本学に特化しない、一般的な入試研究としての入試広報研究も行われてきた（倉元, 2005; 倉元・佐藤, 2006; 倉元・泉, 2014）。例えば、鈴木ほか（2003）はオープンキャンパスの黎明期に早

くも進路選択に及ぼす影響について分析し、その有効性を評価している。さらに、倉元ほか（2005）では、一部の対象に集中的に濃密な大学体験を味わわせるイベントは、費用対効果の面で懐疑的な分析結果を出している。また、倉元（2007）では過去10年分の志願者・合格者の入試データを分析し、都道府県単位の地域区分によって効果的な広報活動のスタイルに違いがある可能性を示唆した。倉元・佐藤（2006）は、受験生が好む学部名称が新奇なものよりも伝統的なものであることから、受験生獲得を狙った看板の書き換えが総じて好ましい結果を産まないことを示した。機関研究を中心とした入試広報研究は、効果的な広報計画を立案する上で欠かせない。

一方、広範囲での大規模な入試広報活動の展開には、各学部を中心に多数の教職員や学生の協力が必要である。入試広報の実施が負担を伴うものである以上、実施者側の理解は欠かせない。大学の多忙化、予算縮減の中、一定の資源を割いて入試広報活動への協力を仰ぐには、広報効果の目に見えるフィードバックが必要である。本学の場合、大きな役割を果たしてきたのが2000（平成12）年度入試から20年以上に渡って実施されてきた「新入学者アンケート」の存在である。調査結果から、オープンキャンパスを中心とした各種の入試広報活動の効果について委員会を通じて毎年報告を続けた結果、負担を理由に中核的な入試広報活動に消極的な意見が出ることは稀になってきた。学内に対する調査結果のフィードバックを「学内広報」と呼ぶとすれば、調査研究活動の一環として、効果的な広報活動の継続に向けた学内広報は非常に重要である。

3.8.4.3 東北大学における入試広報活動の種類

全学の委員会の下に本学主催で組織的に行われている入試広報活動は以下の4種類に整理されている。

1つ目は「高校訪問」である。他の諸活動と比べて個別性が強く、内容は訪問機会によって異なる。主として高等学校の進路指導担当教員との情報交換と生徒に対する東北大学説明会が主な目的である。東北大学アドミッションセンターの設置と同時に1999（平成11）年度から開始された。稀に学部教員を伴う訪問もあるが、主として入試センター教員が担う広報活動である。

2つ目は「入試説明会」である。高等学校の進路指導担当教員を対象とする。東北大学アドミッションセンターの設置の翌年、2000（平成12）年度に開始された。地元の仙台会場を除き、学部からの参加はない。入試センターが実施する広報活動である。

3つ目は「進学説明会・相談会」である。対象は主として受験生、保護者を中心としたものである。2006（平成18）年度に開始された。全学部の協力の他、会場によっては他大学とも協力しながら実施している。

4つ目は「オープンキャンパス」である。本学の入試広報のシンボルとなる活動であり、イベント内容は基本的に各学部に任されている。

その他、外部の機関が主催する入試説明会なども取捨選択しながら参加しているが、ここでは触れない。入試広報活動は通年で行われているが、5月下旬から8月上旬が繁忙期である。主として高校側の事情によるが、専念すべき時期が限定されていることは、費用対効果の観点からは望ましい。

3.8.4.4 東北大学におけるオンラインを活用した入試広報活動

本学においても、2021（令和3）年度入試に向けた入試広報活動は、COVID-19の感染拡大防止の観点から計画の変更を余儀なくされた。2020（令和2）年4月7日（火）に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針」（BCP）が制定され、これ以降、本学のあらゆる活動は、BCPに照らして判断されることになった。BCPでは、当初、COVID-19の感染状況を「0」～「5」の6段階（レベル）に分け、現時点では各レベルでの「研究活動」「授業」「出張」「学内会議」「学生の課外活動」「催事・イベント等」「事務体制」についての指針が定められた。

入試広報活動のうち、高校訪問についてはBCPの出張の指針に基づいて判断された。一方、入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパスについては、「3密状態」が不可避であることから、早い段階から中止について検討され始めた。同時に、これらの入試広報が果たしてきた役割の大きさに鑑み、何らかの代替手段を用意することが喫緊の課題となった。その解決策として浮上したのが、オンラインによる実施である。オンラインの活用によって、移動制限のある高校生、受験生、保護者、高校教員に対して進路決定に必要な情報を提供することが期待された。入試説明会および進学説明会・相談会については2020（令和2）年5月の委員会で、オープンキャンパスについては6月の委員会で、オンラインによる実施が決定され、それぞれ名称は「オンライン入試説明会」、「オンライン進学説明会・相談会」、「オンラインオープンキャンパス」となった。

また、全学的には、コロナ危機に続くニューノーマルを見据えた大学改革を加速することを目的に、2020（令和2）年7月29日付で「東北大学ビジョン2030（アップデート版）」が発表され、「コネクテッドユニバーシティ戦略」が策定された（東北大学、2020）。本戦略の「教育の変革」における主要施策の1つに「距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れ推進」が掲げられ、具体策として「オンラインを活用して国内外を対象とする高大接続プログラムやオープンキャンパスを機動的に展開」および「海外ネットワークを利用した戦略的なアドミッションを通して卓越した留学生を獲得」が明示された。かくして、COVID-19の感染拡大防止を目的として企画されたオンラインによる入試広報活動は、同時に、「東北大学ビジョン2030」に掲げられた主要施策実現の嚆矢となった。

表1. コロナ禍における入試広報活動の実施状況

種類	形態	年度別実施状況		
		R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
入試説明会	オンライン	実施	改善実施	継続実施
	対面	中止	一部再開	一部再開 新規実施
進学説明会・相談会	オンライン	実施	改善実施	改善実施
	対面	中止	中止	再開
オープンキャンパス	オンライン	実施	改善実施	改善実施
	対面	中止	延期・中止	再開

オンライン入試説明会、オンライン進学説明会・相談会、オンラインオープンキャンパス

は、2020（令和 2）年度以降も改善を加えながら、2022（令和 4）年度まで継続されている。表 1 に、この 3 年間ににおけるオンラインと対面での活動状況をまとめた。

3.8.4.5 入試広報活動における対面の再開

入試広報活動のオンラインでの代替には、これまで地理的に参加が難しかった地域からの高校生等の参加を促進する（久保, 2022）といった長所がある。一方で、参加者に及ぼす効果においては対面よりも劣るという短所も示唆されている。例えば、先述の新入学者アンケートでは、オープンキャンパスへの参加が入学した学部（学科）の志望決定にどの程度意味があったかについて尋ねているが、2020（令和 2）年度入学者では、従前のオープンキャンパス参加経験者のうち「決め手となった」と回答した者が 39.2%であったのに対し、2021（令和 3）年度入学者では、前年度のオンラインオープンキャンパス閲覧経験者のうち「決め手となった」と回答した者は 9.6%にすぎなかった（久保, 2022）。

さらに、COVID-19 の感染機序や対処についての理解が進む中、学内外からは対面の再開を望む声が聞こえるようになった。これらが後押しとなって、2021（令和 3）年度は、対面による入試広報活動が徐々に再開された。まずは、入試説明会のうち、各学部の教員が参加する仙台会場が対面で実施された。また、オープンキャンパスについても、対面での再開が企図されたが、COVID-19 の第 5 波と時期が重なって中止に至った（宮本, 2022）。

2022（令和 4）年度に入ると、対面の再開への動きは加速し、表 1 に示した通り、3 つの活動すべてが対面で実施された。このように、3 年間に渡るコロナ禍での東北大学の入試広報活動は、1 年目は対面での中止とオンラインへの移行、2 年目はオンラインを継続しつつも対面の試行的な再開、3 年目はオンラインの継続とともに対面の本格的な再開という経緯を辿った。

以下では、高校訪問も加えた 4 種類の入試広報活動について、これまでの経緯を概説し、2022（令和 4）年度の活動内容とその成果を報告する。

3.8.5 高校訪問

高校訪問は高校教員と円滑なコミュニケーションを結び、本学の入試に理解を深めてもらう貴重な機会となっている。入試広報活動の基本であり、広報計画を設計するうえで大切な活動である。入試センターの高校訪問は単に入試情報や広報資料を高校側に届けることだけが目的ではない。最低授業 1 コマ分程度の時間を割いて、主として進路指導主事を中心とする教員との懇談を行う。その機会に生徒向けの進学説明会や個別相談会といった企画が実施されることも多い。高校訪問は高校関係者と人間関係を構築し、高等学校に人的なネットワークを築いていく貴重な機会である。長年継続していくことによって、高校との信頼関係を醸成していく効果が期待される。入試を中心とした本学の教育の安定した基盤づくりに寄与するものである。

図 1 は 1999（平成 11）～2022（令和 4）年度に入試センターで行った高校訪問件数である。件数としてはアドミッションセンター時代の 2003（平成 15）年度に最初のピークを迎えた。年度途中で「平成 15 年度教育共同プロジェクト（総長裁量経費）新学習指導要領の下での高等学校のカリキュラムに関する実施調査」が採択され、一部経費を高校個別訪問による実地調査に活用したことによる。経費は中部地方、関西・山陰地方、沖縄地方といった、

それ以前はあまり訪問機会がなかった地域の高校の訪問に充てられた。その後、件数としてはやや落ち込んだが、2011（平成23）年度には3月に発生した東日本大震災による本学志願への悪影響を懸念して措置された予算に基づく訪問活動が年度後半に行われた。緊急対応的な意味が強く、通常の年度の活動とは性格をやや異にしている。2015（平成27）年度まで入試センターは専任教員3名という限られた人員であり、再び件数の上では低迷していたが、2016（平成28）年度に新たなスタッフが加わったことで、高校訪問活動が再び活性化した。2019（令和元）年度には、過去の高校訪問記録をデータベース化し、訪問計画の策定と訪問の際の資料の準備を効率化する体制が整った（檜田、2021）。

2020（令和2）年度と2021（令和3）年度の高校訪問は、BCPレベルに従って行われたが、出張への制限が課されていた期間が長かったため、東北地方の高校を中心に1桁に留まった。2022（令和4）年度には、対面での入試説明会や進学説明会・相談会が再開したことに伴い、高校訪問も21件まで復活した。

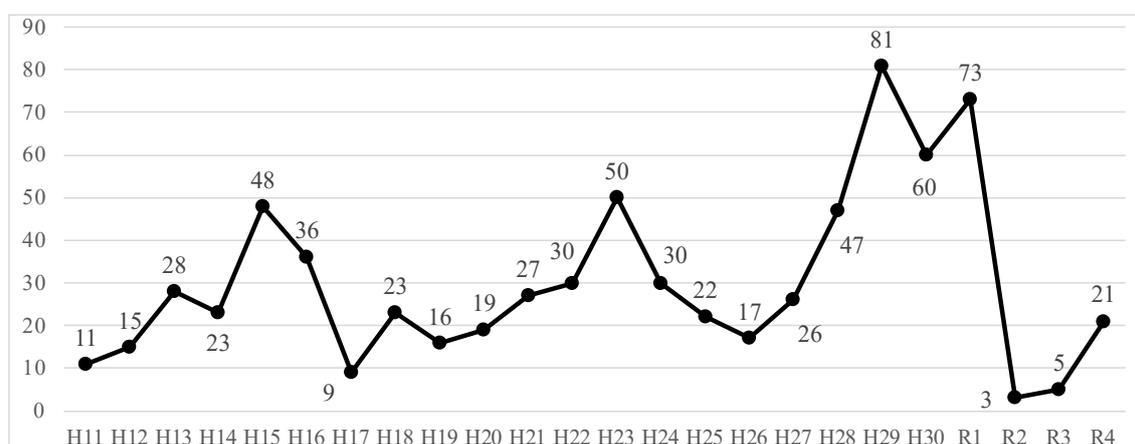


図1. 個別高校訪問件数

3.8.6 入試説明会

3.8.6.1 入試説明会の経緯とこれまでの実施概要

当初は前年から始められたAO入試に関する情報を従前から行われていた推薦入学⁵⁾とともに幅広く届ける目的で始められた。当初から主として進路指導担当教員を対象とした企画として構想されていたものの、そのコンセプトが固まるまでには試行錯誤があった。現在は受験生、保護者を対象とするイベントは「進学説明会・相談会」と呼んで区別されている。

入試説明会は、当初、東北大学型の「学力重視のAO入試」を広くアピールする機会と位置付けられたが、現在は本学の学部入試全体の考え方を説明する機会として活用されている。同時にその時点で起こっている入試関係の問題状況について来場した高校教員と意見交換をする場としても活用されている。高校訪問や長期にわたる関係性構築のきっかけとなる場合もある。

表 2. 入試説明会会場及び参加教員数

開催都市	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
札幌	—	24	12	14	20	19	16	14	16	16	22	17	18	21	22	26	13	22
青森	28	22	20	24	29	29	18	27	23	18	18	14	13	13	9	—	7	10
弘前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—
盛岡	31	29	35	31	19	23	22	14	13	30	23	14	8	15	16	14	23	22
仙台	42	41	39	43	48	86	155	207	189	178	199	214	227	223	220	209	204	232
秋田	15	15	8	13	11	16	11	13	15	18	13	12	11	13	11	16	18	21
山形	21	20	16	22	22	23	—	—	—	—	—	—	—	7	3	17	7	11
郡山	49	22	22	27	20	10	—	—	—	—	—	—	—	37	5	28	16	12
水戸	16	—	11	16	20	23	19	17	21	25	19	17	19	19	20	21	15	17
土浦	—	<u>15</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宇都宮	—	<u>23</u>	21	24	26	17	20	22	21	21	17	15	17	16	24	17	17	24
高崎	—	<u>14</u>	13	16	18	19	17	17	21	19	18	18	18	19	22	29	19	27
さいたま	—	—	—	—	16	13	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	36	39	25	33	34	42	48	49	47	33	49
新潟	9	11	14	19	23	15	21	27	23	22	22	18	20	22	21	20	29	20
金沢	—	20	21	10	10	11	10	8	5	7	4	5	10	4	8	9	9	6
甲府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	6	9	7	7	8	9	9
長野	10	—	7	12	8	9	10	12	16	11	11	13	12	11	11	12	15	13
松本	—	<u>11</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	16	15	17	15	13	15	14	11	16	11	11	10	12	16	13	14	10	9
名古屋	22	—	—	—	—	—	17	16	11	12	7	8	7	8	14	14	8	16
大阪	27	—	—	—	—	7	10	15	9	9	14	11	16	12	14	16	17	19
松江	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山	—	—	—	—	—	—	9	10	8	8	7	7	8	10	4	6	6	8
広島	—	—	—	—	—	—	—	—	10	6	6	3	13	5	5	7	5	4
福岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	6	6
那覇	—	—	7	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	286	<u>282</u>	263	291	303	335	379	467	456	436	451	436	480	526	498	552	486	557

注: 2003 (平成 15) 年度は一部の記録が残っておらず, 下線 (イタリック) の会場は参加予定数

来場する高校教員のキャリアや知識レベルは様々である。公立高校の教員であれば、転勤による入れ替わりや校務分掌の交代がある。日程によっては参加人員のやりくりも必要となる。高校側には新人研修として活用してもらおうことも勧めている。説明側も経験の浅い教員でも十分に内容が理解できるように、基本的な事項から分かりやすく伝えることを心がけている。

表 2 に示したように、2002 (平成 14) 年度以降は、会場と会場ごとの参加者数の記録が残っている。開催都市にはそれぞれ特徴がある。仙台会場については 2007 (平成 19) 年度から分科会方式を採用して学部教員による当該学部の入試紹介の機会と位置付けた。それ以外の会場を入試センター教員が担当し、現在に至っている。このように 2007 (平成 19) 年度に全国唯一の学部ごとの説明会場と位置付けられてから、仙台会場の参加者数は急激に伸びた。地元の宮城県のみならず、近県を中心に一校当たり複数の教員で参加して、同時並行で行われている各学部のセッションから情報を得ようとする傾向がみられる。仙台会場以外では、固定されている会場と実験的に設けられた会場、一度中断して再開された会場がある。参加者数が伸び悩む会場もあるが、以前よりは実際に志願者を輩出する参加校から教員が参加する傾向が見られる。むしろ、説明会の内容が徐々に洗練され、充実してきていることが感じられる。

3.8.6.2 2022（令和4）年度における入試説明会の実施結果とその評価

(1) オンラインによる取り組み

オンライン入試説明会とは、入試センター教員の担当分をビデオ会議システム（Zoom ミーティング）で代替したリアルタイム型の説明会である。実施単位をセッションと呼び、1セッションあたりの時間を60分、定員を20名（20回線）とした（詳しくは、久保ほか、2021a）。2年目の2021（令和3）年度には、前年度の実施結果を踏まえて、参加者の居住地域ごとに設定したセッションを廃止し、すべてのセッションを地域フリーとし、また、実施時間帯を変更する等、実施仕様を改善した（詳しくは、久保・宮本、2022）。2022（令和4）年度は、それによって実施した。

表3に、各年度の申込・参加状況を示した⁶⁾。2022（令和2）年度の申込者数は、同じ仕様で実施した2021（令和3）年度と比較して大きく減少した。参加率には大きな変動はなかった。地域別の申込者数（図2）をみると、東北地方の減少幅が著しく大きかった。後述する対面による仙台会場の再開が影響していると考えられる。

表3. オンライン入試説明会への申込・参加状況

	実施回数	申込者数	参加者数	参加率(%)
2020	39回	273	226	82.8
2021	18回	216	174	80.6
2022	18回	119	100	84.3

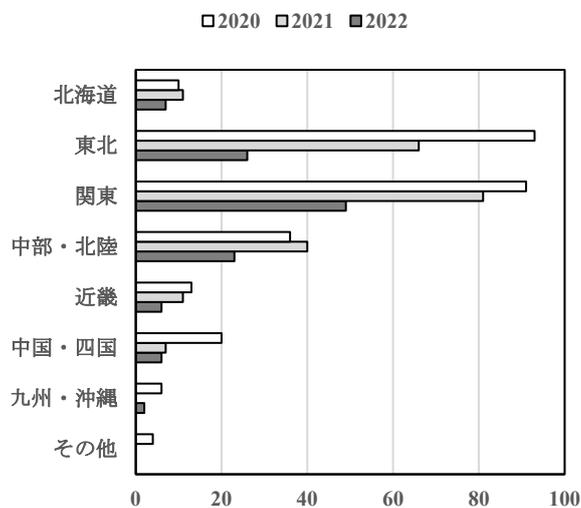


図2. オンライン入試説明会の地域別申込者数（人）

オンライン入試説明会の参加者には、昨年度までと同じ項目内容で、実施時期や曜日・時間の適切性、説明のプレゼンテーションのわかりやすさ等を尋ねる事後アンケートを実施した。回答者数（回答率）は、2022（令和4）年度は57名（57.0%）であった。2022（令和4）年度の結果は、いずれの項目においても、過去2年間と同様に肯定的な回答が大半を占めた。これまで設定してきた実施時期・日程には重大な瑕疵がないことが確認できたと同時に、参加者にとって説明会の質が良好な水準で維持されていることが示唆された。

(2) 対面による取り組み

入試説明会のうち、各学部の教員が参加する仙台会場は 2021（令和 3）年度より再開した。会場は、従来通り仙台国際センターを使用し、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」に従って実施した。このため、2021（令和 3）年度の定員は、会場の収容定員の 50%とした。2022（令和 4）年度は、同ガイドラインが改訂されたため、収容定員通りで実施した。

2022（令和 4）年度の参加者数は 211 名であり、表 2 と比較すると、コロナ禍直前の 2019（令和元）年度と同等の水準まで回復した。また、都道府県別の参加者数をみると（図 3）、2021（令和 3）年度、2022（令和 4）年度ともに、宮城県が最も多く、次いで、福島県、山形県、岩手県、青森県が続き、これら東北地方の 5 県で参加者の 9 割以上を占めていた。先述した通り、東北地方においてはオンライン入試説明会への申込者数が大幅に減少しているが、その原因として、仙台会場の再開が影響していることが示唆される。両者はトレードオフの関係にあることがうかがえる。

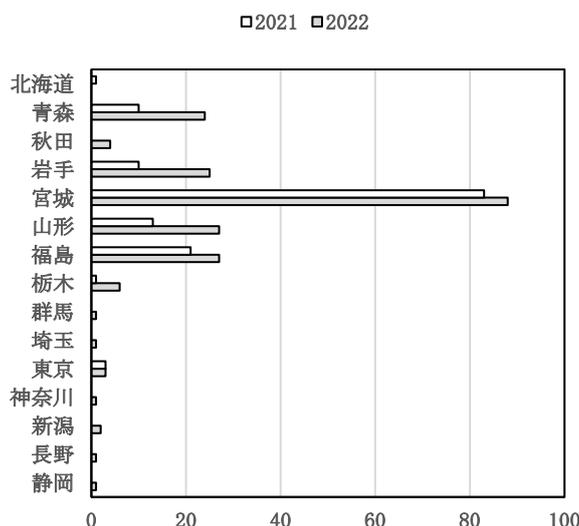


図 3. 入試説明会仙台会場の都道府県別参加者数（人）

加えて、2022（令和 4）年度は、新しい形での活動を試みた。従来の入試説明会は、東北大学が主催し、用意した会場に個々の高校教員が自由に参加する形式であった。基本的には東北大学の入試に関する説明を参加者が聞く、オーソドックスな講演会形式を取ってきた。それに対して、2022（令和 4）年度には、従来から行ってきた「高大接続改革に向けての東北大学—宮城県高等学校進路指導研究会進学部会情報交換連絡会（略称、情報交換連絡会）」の活動を基盤に、類似の内容を東北地方の各県へ展開した。同連絡会は 2015（平成 27）年度入試における当時の新指導要領の下での大学入試センター試験「理科」への対応をきっかけに発足した「平成 27 年度入試に向けての東北大学—宮城県高等学校進路指導研究会進学部会情報交換連絡会」（渡邊，2012）から発展したもので、ここ数年は、年度末に「仙台市内六校会」と称する組織を中心に宮城県内にある 10 校弱程度の進学校と東北大学入試センター教員が当該年度に実施した入試を主たる対象に、ひざ詰めで具体的かつ詳細な意見交

換を行ってきた。この活動をモデルに東北各県で既存の県内進学校のネットワークや進路指導関連組織と連携した意見交換の場を設ける試みを始めたものである。なお、実施時期は年度明けの6～7月とした。

こうしたネットワークや組織を構成する高校は、東北大学への志願者を多く抱えており、本学の入試に対しての「当事者性」(宮本, 2021: 8)が強い。そして、当該のネットワークや組織では、本学の入試に関しての情報交換会や研修会等が開かれ、一種の「コミュニティ」として機能している。そうしたコミュニティへ直接的に働きかけるという意味で、コミュニティ・アプローチと呼ぶ。実際には、県ごとに状況が異なり、活発に組織が機能している県、形だけの組織しかない県、対応する組織自体が見当たらない県もある。これまで、各県の事情に応じて方法を調整しながら、5県すべてにおいて実施した。この新しい試みに対し、参加者からはおおむね肯定的な感想が寄せられている。

2019(令和元)年度以降、東北大学入学者に占める東北地方出身者の割合が関東地方出身者を下回っている。地元地域の高校の教育力を支えることも本学の役割の1つである。コミュニティ・アプローチはそれに資することが期待できる。

3.8.7 進学説明会・相談会

3.8.7.1 進学説明会・相談会の経緯と他大学との連携

東北大学進学説明会・相談会⁷⁾は2006(平成18)年度からの東京会場を皮切りに2007(平成19)年度から大阪, 2010(平成22)年度から札幌, 2016(平成28)年度から静岡, 2018(平成30)年度から福岡と広がり, 2019(平成31)年度から仙台会場⁸⁾が開始された。開催都市は仙台を除き、倉元(2007)で高校訪問による効果的な入試広報が難しいとされた「シティ」に属する都道府県である。東京会場と仙台会場は当初から本学単独開催の構想で始まったが、他の会場は他大学との共催が模索されてきた。大阪会場は当初は単独開催であったが2年度目から他大学と共催となった。共催方式を採ったことで参加者数が大幅に増え、会場が維持できたという経緯がある。札幌会場と静岡会場は当初から他大学との共催である。共催大学を表4に示す。2018(平成30)年度開始の福岡会場は単独開催として始まっているが、2022(令和4)年度には広島大学との共催が実現した。

共催問題が生じるのは、本学の訴求力の問題である。仙台と東京を除く多くの都市では単独開催とした場合の参加者数に不安が残る。受験生の立場から見て類似した大学との共同イベントとすることで参加者数の向上が期待される。2019(令和元)年度からは、担当者一人でも参加可能な形態で多数の共催大学を募る方式を開始した。その矢先にCOVID-19に見舞われ、2020(令和2)年度及び2021(令和3)年度の計画は全て中止となった。

2019(令和元)年度までの参加者数、来場者数の変遷は図4の通りである。折れ線グラフ(人数は左側の軸)で表示した「延べ参加者数」は本学関連イベントに参加した者のみカウントしている。棒グラフ(右側の軸)の「来場者数」には他大学関連イベントのみに参加した者も含まれる。2011(平成23)年度には東日本大震災の影響を受け、東京会場で急激な参加者数の減少が見られたが、その後、回復してさらに拡大基調となっていた。

表 4. 進学説明会・相談会共催大学

	大阪会場	札幌会場	静岡会場	福岡会場
H20	北大, 筑波大, 九大	—	—	—
H21	筑波大, 九大	—	—	—
H22	筑波大, 九大	筑波大	—	—
H23	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—	—
H24	筑波大	新潟大, 筑波大	—	—
H25	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—	—
H26	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—	—
H27	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—	—
H28	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H29	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H30	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	(工学部主催)
R1	筑波大	筑波大, 宮教大 新潟大, 金沢大	筑波大, 山形大 福島大, 新潟大	共催なし
R4	群馬大, 名古屋大, 名古屋工業大	群馬大, 茨城大, 名古屋大	山形大, 群馬大, 茨城大, 名古屋大, 名古屋工業大	広島大学

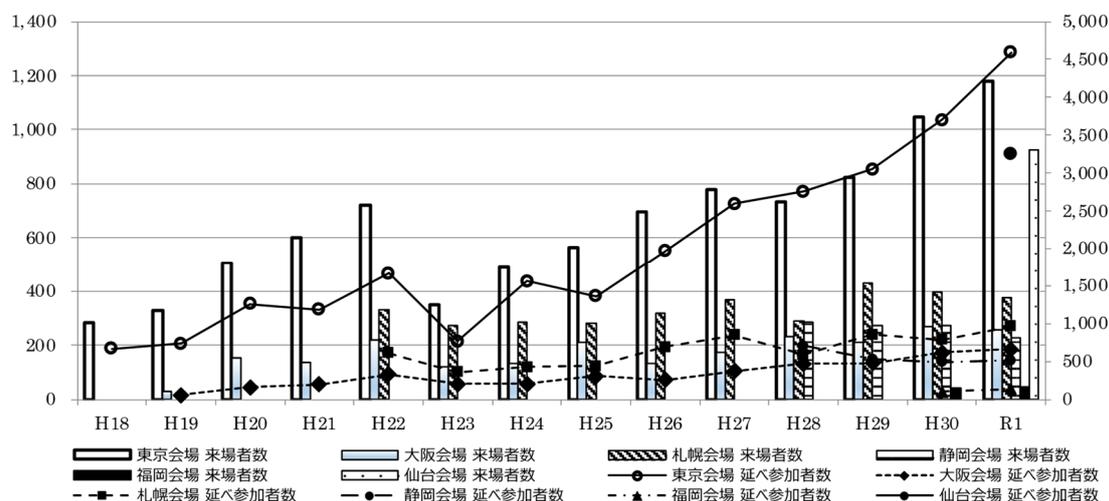


図 4. 進学説明会・相談会参加者数

3.8.7.2 2022（令和 4）年度における進学説明会・相談会の実施結果とその評価

(1) オンラインによる取り組み

オンラインによる進学説明会・相談会は、2つの形態で実施された。1つは、主に「説明会」の部分を担当する「オンライン進学説明会・相談会」という名称の特設サイトの設置である。同サイトは、各学部から提供された学部紹介等の動画を中心としたオンデマンド型のコンテンツで構成された（詳しくは、久保ほか, 2021b）。

2020（令和 2）年度から取り組まれたが、2年目のアクセス状況は著しく低下した。また、先述した新入学者アンケートによれば、入学前において特設サイトの閲覧経験者は、2021（令和 3）年度入学者（n=2,388）では 16.2%，2022（令和 4）年度入学者（n=2,417）では 15.0%に過ぎなかった。さらに、閲覧経験者のうち入学した学部等への志望決定に対する影響をみると、「決め手となった」と回答したのは両年度ともに 1割未満であった。以上に加え、オンラインオープンキャンパス（後述）とコンテンツが重複すること、さらには、

各学部担当者の負担軽減が勘案され、2022（令和4）年度は、オンライン進学説明会・相談会の特設サイトを廃止し、オンラインオープンキャンパスと統合することになった。

オンラインによる進学説明会・相談会のもう1つの形態は、入試センター教員によるリアルタイム型の個別相談会で、「相談会」部分を担うことから「オンライン進学相談会」と呼称された。

オンライン進学相談会は2020（令和2）年度から始まったが、実施の仕様をめぐっては試行錯誤が続いた。2021（令和3）年1月、7月と2回の実施を経て、同年10月の実施の際に仕様が固まった。実施期間は2日間、1回あたりの時間は15分、定員は1名、担当者ごとに1日9回の実施とした（詳しくは、久保・宮本, 2021）。この仕様にに基づき、2022（令和4）年度は7月9・10日と10月15・16日に実施した。7月、10月ともに各日4名ずつが担当し、2日間の定員は72名であった。

7月は申込者数46名、参加者数40名、10月は申込者数70名、参加者数60名であった。図5に、都道府県別の参加者数をまとめた。7月に比較して10月は、宮城県からの参加者が10名増えたほか、関東地方の各都県や愛知県、兵庫県等からの参加者が増え、全体として20名増となった。10月には、1名海外からの参加もあった。一方で、7月に6名が参加していた長野県からは、10月の参加者はなかった。

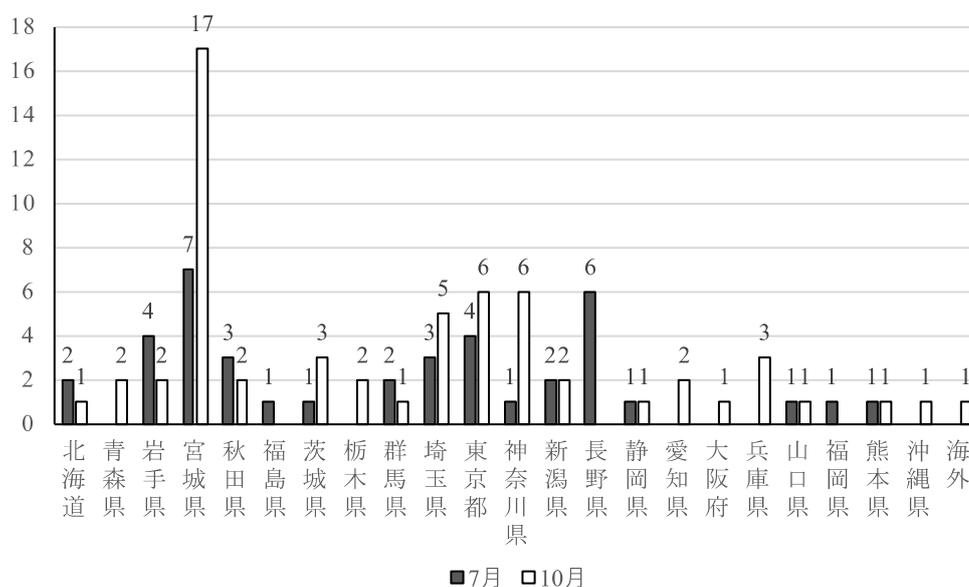


図5. オンライン進学相談会への都道府県別参加者数

参加者に対して事後アンケートへの協力を求めたところ、7月の相談会では33名（回答率82.5%）、10月の相談会では50名（回答率83.3%）から回答を得た。アンケートの結果から、7月、10月ともに40%以上がスマートフォンを利用して参加していた。PCによる参加は7月の回答者で45.5%、10月の回答者で32.0%であった。相談会の時間（15分）の適切さについては、8割以上の回答者が「ちょうど良い」と回答していた（7月：81.8%、10月：92.0%）。また、相談会で「求める情報が得られたか」の項目ではほとんどの回答者が「得られた」と答えており（7月：97.0%、10月：96.0%）、「東北大学への志望が強くなったか」

の項目に対しても、8割以上が「強くなった」という回答であった（7月：90.9%，10月：82.0%）。本学への志望について、7月より10月の参加者の方が、「強くなった」の回答割合がやや少なく、約2割が「変わらない」を選択した理由として、AO入試Ⅱ期の実施が11月に控えており、10月の時点ではすでに志望が固まっている相談者が多かったため、その強い気持ちが「変わらない」と答えた可能性が考えられる。自由記述の内容からも、オンラインによる相談会が、本学志願を促したり、すでに本学を志望している参加者の不安を解消したりするために有効であることが確認された。

(2) 対面による取り組み

2022（令和4）年度は、3年ぶりに対面による進学説明会・相談会を再開し、札幌（7月3日）、東京（7月17・18日）、静岡（6月27日）、大阪（6月12日）、福岡（8月8日）の5都市で開催した。東京会場は、これまでの実績から相当の混雑が予想されたので今回はじめて2日間に分けて実施した。また、すでに表4に示した通り、東京会場を除き、他大学との共催とした。

プログラムは、これまでと同様で、入試センター教員による入試解説、各学部からの教員による学部紹介、事務職員による住居・奨学金の説明、学生による大学紹介と、共催大学による説明といった講演についての時間割が組みられ、複数の部屋を使って並行して実施された。また、個別相談用の部屋も用意され、それぞれの相談ブースが常時設置された。

なお、COVID-19の感染拡大防止のため、定員を各会場の収容定員の50%までとし、さらに参加にあたっては完全予約制とした。また、応募者数が定員を超える場合は抽選としたが、抽選となった講演は、東京会場で数コマあるだけであった。

図6に、各会場の参加者数を示した。比較のため、前回の2019（令和元）年度のデータも併記した。2022（令和4）年度は、前回と比べ、静岡会場以外はすべて減少した。特に、札幌、大阪、東京の減少幅が大きかったが、COVID-19の感染状況から、これらの都市では感染に対する警戒心がより強かったせいかもしれない。ただし、札幌については、近隣の進学校の行事日程と重なったことも一因であることが後に判明した。

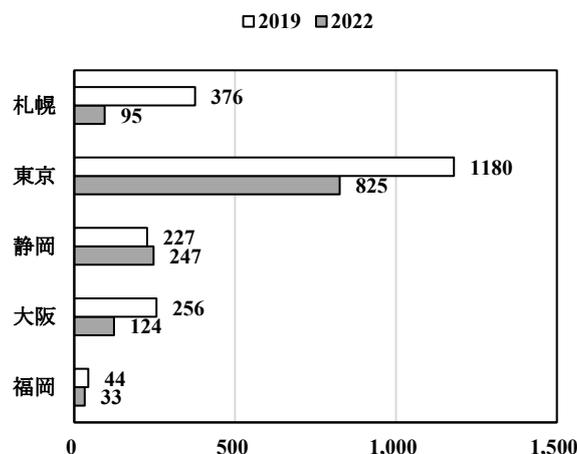


図6. 各会場の参加者数（人）

事後アンケートの回答者は、札幌 42 名、東京 378 名、静岡 115 名、大阪 49 名、福岡 13 名であった。まず、今回の進学説明会・相談会の情報については、東北大学のウェブサイト
で知った者がいずれの会場においても最も多かった。また、札幌と静岡では、学校等に掲示
されたポスター、教員による紹介などで知った者も他よりも相対的に多かった。地域によっ
て周知方法をきめ細かく調整することの重要性が示唆された。

開催時期や会場までのアクセスについてはいずれの会場でも 8 割以上が肯定的な回答で
あった。ただし、札幌については会場までの利便性に不満を感じている者が一定数いるよう
であった。

講演内容については「参考になった」とする回答がすべての会場で 8 割以上を占めた。参
加者にとって適切な情報提供がなされていたと考えられる。一方、個別相談については、各
会場の 4 割～6 割程度の者が「利用しなかった」と回答した。相談ブースでは飛沫防止用の
シールドを設置する等、感染防止に努めたものの、対面での会話は敬遠されやすいことがう
かがえた。なお、5 会場すべてにおいて参加者が感染したというケースは無く、感染対策は有
効に機能したと考えられる。

3.8.8 オープンキャンパス

3.8.8.1 オープンキャンパスの誕生と成長

東北大学オープンキャンパスは、1982（昭和 57）年に工学部の金属系 3 学科が学科公開
を行ったのが起源と考えられている。1995（平成 7）年には、工学部の全学科（17 学科）
が参加して公開行事が行われ、その後、青葉山キャンパスに位置する理学部、薬学部が追随
した。高校側の希望と学内からの要請もあり、1998（平成 10）年には全学で説明会や公開
授業が行われた（東北大学百年史編集委員会、2009: 402）。さらに、その翌年、1999（平成
11）年度より「東北大学オープンキャンパス」として全学部が参加する全学的イベントとな
った。

開催日は当初から 7 月末の平日 2 日間である。開催日決定規則が明確に定められている
ことから、数年後まで自動的に決まっている。イベント開催部局の予定を立てやすくし、参
加を希望する高等学校等への周知を容易にするためには重要な条件と言える。

図 7 に示すようにオープンキャンパスの規模は年々拡大してきた。参加者数は当初の 10
倍以上の規模に達し、2018（平成 30）年度には、当該年度に実施されたオープンキャン
パスの中で全国一となった（朝日新聞出版、2020: 369）。2019（令和元）年度には、さら
に参加者数を伸ばし、本学過去最高の 68,403 名を記録した。実際には正確な参加者数の把握は
困難だが、近年は 1 人の参加者につき 2 日間の開催日を通じて全学の資料を 1 つのトート
バッグで収めて渡すことでカウントしている。中にはルールに違反して複数のバッグを受け
取る参加者もいるだろうが、家族連れなど複数で参加する場合には 1 人が代表して受け
取る場合もある。工学部や理学部は、広大なキャンパスに分散して学科受付を設けている。
相当数が学科受付に行くが、総合案内を通らなければ数え落としとなる。著しい過大推定に
はなっていないと思われる。

本学のオープンキャンパスは完全自由参加制で、事前登録や人数制限を加えてこなかった
ことが特徴であり⁹⁾、規模拡大を可能にした秘訣である。開催内容は学部主導で決まる
ので、学部、学科ごとに知恵を凝らした工夫がみられる。結果的に参加者は受験生以外にも

広がり、多様な層が参加を楽しみにする祭のような雰囲気のイベントとなっている（河本，2009）。

オープンキャンパスの実施負担は膨大であり、当然ながら、日常の研究・教育活動に支障が出ると不満が生まれるのは当然である。それがここまでの規模になってきたのは、それだけの負担を負っても実施するかいがあることを示すエビデンスが存在するからである。

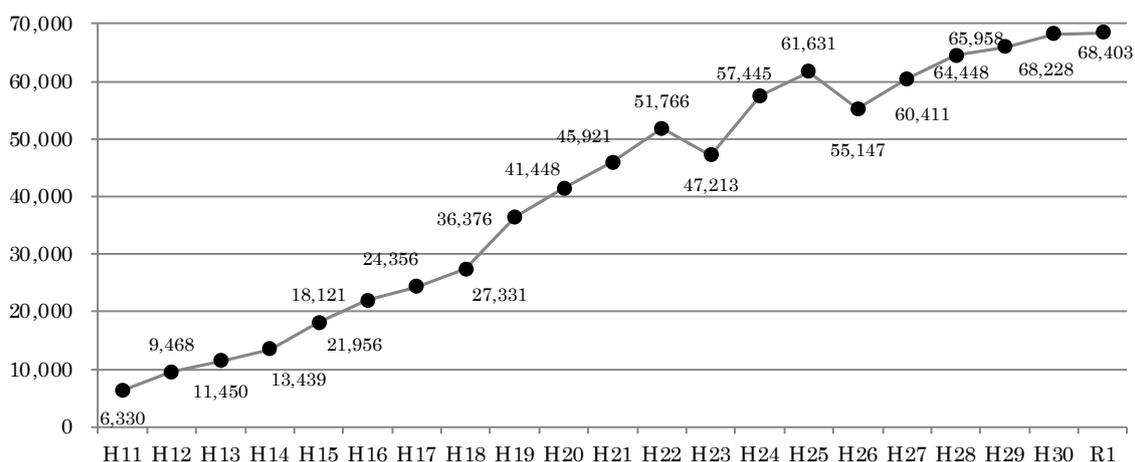


図 7. オープンキャンパス参加者数の変遷

3.8.8.2 2022（令和 4）年度におけるオープンキャンパスの実施結果とその評価

(1) オンラインによる取り組み

オンラインオープンキャンパスは、2020（令和 2）年度より 3 年間継続されている。基本的な構成は、入試センターが運営する特設サイトと、各部局が運営する専用サイトから成る。入試センターの特設サイトでは、各部局の専用サイトへの誘導と全学的なコンテンツを掲載する。また、各部局の専用サイトは、それぞれの部局の自由裁量で運営し、研究紹介、模擬講義、施設公開、キャンパスツアー等についてのオンデマンド型及びリアルタイム型のコンテンツを掲載・発信する。その際、各部局には、独自のサイトを立ち上げる方式と、入試センターが用意した共通のプラットフォームを利用する方式のいずれかを選択できるようにした（詳しくは、久保，2022）。準備の都合上、公開日は、2020（令和 2）年は 7 月 29 日、2021（令和 3）年は 6 月 21 日、2022（令和 4）年は 6 月 29 日とばらつきがあったが、終了日はいずれの年度も 3 月 31 日までとした。以上の実施方針や基本的に仕様は、この 3 年間変更はない。特設サイトも同じシステムを継続使用している。ただし、デザインのみ毎年年度変更している。また、各部局のコンテンツも年度ごとに更新されている。

2022（令和 4）年度オンラインオープンキャンパスのアクセス状況は、延べ PV 数が 246,740、延べ訪問者数が 85,665 であった。新入学者アンケートによれば、入学前におけるオンラインオープンキャンパスの閲覧率は、2022（令和 4）年度入学者では 37.5%、2023（令和 5）年度入学者では 41.9%であった。コロナ禍前数年間における対面オープンキャンパスの参加率は 50%台（倉元ほか，2020）であることから、オンラインになって閲覧率は減少した。ただし、オンラインオープンキャンパス開始以降の 3 年間の閲覧率を地域別にみると（図 8）、2023（令和 5）年度入学者では、本学入学者全体での出身地域のボリューム

ムゾーンである東北地方、関東地方、中部地方のいずれにおいても閲覧率は増加していた。

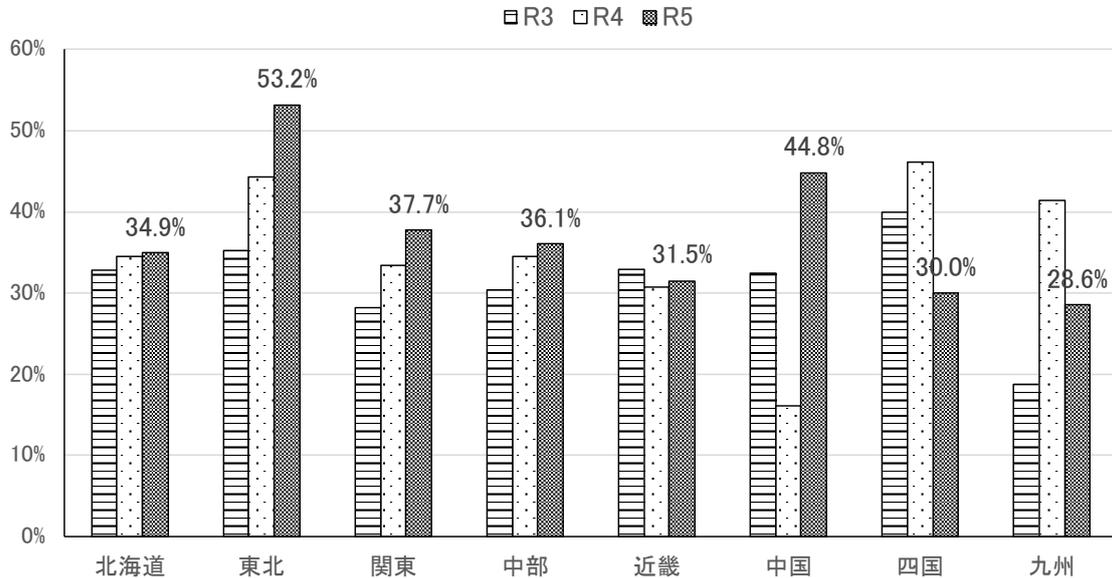


図 8. 地域別のオンラインオープンキャンパス閲覧率

2023（令和 5）年度入学者を対象に、入学以前におけるオンラインオープンキャンパス、あるいは対面オープンキャンパスへの参加・閲覧が、入学した学部（学科）への志望決定にどの程度意味があったかを尋ねた項目への回答を表 5 に示した。オンラインオープンキャンパスに関する回答傾向はこの 3 年間同様であり、「決め手となった」の選択割合は 1 割未満、「参考になった」を合わせると約 8 割が肯定的な回答であった。しかしながら、コロナ禍以前の対面オープンキャンパスでは、「決め手になった」という回答のみで 3～4 割程度を占めていたことから、対面に比べて、オンラインによるオープンキャンパスは高校生・受験生に対する訴求力が弱いと考えられる。

表 5. オープンキャンパスへの参加・閲覧が志望決定に与えた影響（参加・閲覧者比）

OC 種別	決め手となった	参考になった	あまり関係 なかった	全く無関係
オンライン(n=976)	7.6%	72.3%	13.9%	6.1%
対面(n=583)	29.8%	57.1%	8.9%	4.1%

(2) 対面による取り組み

対面によるオープンキャンパスの再開は、2022（令和 4）年度の入試広報活動における最重要のミッションであった。前年度は中止になったが、実施の方針や方法について細部まで詰め、それに基づき、参加学部において当日の具体的なプログラムが作成された（詳しくは、宮本, 2022: 195-198）。2022（令和 4）年度は、こうした前年度の方針・計画を踏襲する形で進めることとした。

1. 実施単位

- ・ 参加部局は10学部のみとし、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部医学科、医学部保健学科、歯学部、薬学部、工学部、農学部、を実施単位の基本とする。
- ・ 各学部等において、さらに下位分類による実施単位を設けるかどうかは自由裁量とする。

2. 日程

- ・ 第1日程を7月27日（水）、28日（木）、その予備として、第2日程を9月17日（土）、18日（日）とする。

3. 開催判断

- ・ 原則「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針（BCP）」のレベル1以下で実施する。
- ・ なお、レベル2での開催判断は、感染状況・社会情勢を注視し、新型コロナ対策班会議及び理事（教育・学生支援担当）の判断を確認して、開催又は第2日程（9/18・19）への延期を検討する。
- ・ レベル2で開催する場合は、開催日の2週間前までには決定する。なお、この場合の感染対策は、レベル1で計画したものと同様の対応とする。

4. プログラム編成

- ・ 各日を午前の部、午後の部に分け、計4つのブロック（下表）ごとに、プログラムを編成する。
- ・ 各ブロックの活用方法は、各学部等の自由裁量とする。
- ・ 各ブロックの持ち時間は2時間半とし、参加者がその時間をおおむね過ごせるようにプログラムの時間を設定する。1プログラムの時間が短い場合は、複数のプログラムを組み合わせる。

	午前 9:00～11:30	昼休み 11:30～13:30	午後 13:30～16:00
1日目	ブロック1		ブロック2
2日目	ブロック3		ブロック4

5. 定員

- ・ プログラムごとに定員を設定する。
- ・ ブロック内の各プログラムの定員を積み上げたものを当該ブロックの総定員とする。

6. 参加方法

- ・ 申込者の要件 原則、高校生、編入学を希望する高専生・受験生（完全予約制）
- ・ 予約の独占を抑制するための措置：申込者に参加ルールを周知、選択可能なプログラムの制限（同一ブロック内では、学部・学科等は1つしか選択できない等）
- ・ 申込者が各プログラムの定員を超える場合は抽選とする

図9. 対面オープンキャンパスの実施方針

図 9 は、全学の委員会で策定した、今回の対面オープンキャンパスの実施方針の概要を示したものである。基本的な考え方としては、従来のオープンキャンパスと同様に、学部
の自由裁量を尊重しつつも、COVID-19 の感染拡大防止のため、①従来よりも小規模で実施
すること、②「3密」を回避すること、③来場者の動きを把握すること、を遵守することと
した。これに基づき入試センターで「実施マニュアル」を作成し、参加学部配布した。各
学部は、実施マニュアルに従って準備を進めた。その結果、開催期間中に実施するプログラ
ムは、総計 168 本、総定員は 7,201 名であった。

対面によるオープンキャンパスは、予定通り、第 1 日程（7 月 27・28 日）に実施された。
延べ申込者数は 26,378 名であり、総定員に対する倍率は、3.7 倍であった。申込者の居住
地域は、東北地方がもっとも多く（54.8%）、次いで、関東地方（32.7%）、中部・北陸地方
（8.8%）が続く、これらの 3 つの地域で 9 割以上を占めた。対面の場合、距離的な近さが
参加を動機づける上で決定的であることが示唆された。当日の参加者総数は 5,680 名であ
り、参加率は 78.9%であった。参加率は、学部によって違いが見られ、69.4%～91.7%の範
囲であった。

2023（令和 5）年度入学者を対象とした新入学者アンケートの回答者（n=2,384）のうち、
対面オープンキャンパスに参加した者の割合は 24.5%であった。上述のように、2022（令
和 4）年度は定員を設け、人数制限を行ったため、コロナ禍以前の対面オープンキャンパス
への参加率には及ばなかった。

2023（令和 5）年度入学者における 2022（令和 4）年度の対面オープンキャンパスへの
参加率を地域別にみると、東北地方で 31.8%と最も多く、次いで四国地方で 20.0%、さらに
関東地方、中部地方、北海道でそれぞれ 13%程度であった。ただし、四国地方については、
入学者数そのものが少ないため、解釈には留意が必要である。

表 5 より、2023（令和 5）年度入学者では、対面オープンキャンパスへの参加経験者の約
3 割が、入学した学部等への志望決定の「決め手となった」と回答しており、「参考になっ
た」も合わせると 87%に上った。これらの選択割合は、コロナ禍以前の対面オープンキャン
パスの水準に迫るものであり、対面オープンキャンパスが進路決定に対して非常に強い
影響力を持つことが改めて確認された。

なお、対面オープンキャンパス終了後、参加者が感染したケースは皆無であった。COVID-
19 の感染拡大防止に最大限注意を払っての開催であったので、このことが一番の成果とい
うこともできるだろう。

3.8.9 まとめ

COVID-19 の感染拡大が始まってから、入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャン
パスといった入試広報活動はオンラインでの実施に移行したが、2022（令和 4）年度は、
対面による活動を本格的に再開した。オンラインと対面で展開された 3 つの入試広報活動
の取り組みとその成果を踏まえ、コロナ禍以降 3 年間の入試広報活動の実践を通して明ら
かになったことと、課題について述べてい。

まず、高校教員向けの入試説明会については、本学の地元地域である東北地方の教員は、
オンラインよりも対面を好む傾向にあることが明らかになった。距離の近さもあるが、直接
的に本学の教職員とコミュニケーションをとることを重視しているのかもしれない。この

ことは、新しい取り組みであるコミュニティ・アプローチが肯定的に受け入れられたこととも整合する。東北地方の教員向けの広報活動では対面を軸に展開することが望ましいと考えられる。

一方、遠隔地域では、中部・北陸地方以外では、それほど多くの参加者はみられなかった。おそらくは、そもそも東北大学に対しての当事者性が低いことが原因であるように考えられる。オンラインを利用すれば容易に遠隔地域からの参加者が増えるということではない。まずは、本学に対する情報ニーズを喚起させることが先決であろう。

高校生向けの進学説明会・相談会については、オンライン進学説明会・相談会とオンラインオープンキャンパスを分けて開始したことは、結果として失敗であったと考えられる。対面では両者は明らかに趣旨の異なる活動であるため別々のサイトを作成したが、オンラインになった場合、コンテンツが重なることが多くなり、受け手側からすれば両者の違いが不明瞭になるといえる。

オンライン進学相談会については興味深い結果が得られた。全国的に参加者数が増えているが、特に東北地方が増えていた。オンラインのメリットとしては距離の制約がないことが強調されがちであるが、今回の結果は、リアルタイムでパーソナルなコミュニケーションができることが要因であるように考えられる。東北大学に対して強い情報ニーズがある層にとっては、自分だけが知りたい情報を得られる絶好の機会となっていると推察される。

対面の進学説明会・相談会については、2019（令和元）年度と比べて、静岡会場以外は、参加者が減少した。先述したように、COVID-19によって、参加を差し控えた可能性がある。静岡会場については、名古屋大学をはじめ、共催した他大学の講演等にも参加者が他の会場よりも多かったため、参加者数が伸びたと考えられる。

オープンキャンパスについては、対面に比べて、オンラインになると高校生に対しての訴求力が低下することが明らかになった。一方では、オンラインによって遠隔地域からの参加を促すことも示唆された。したがって、いかに訴求力の高いコンテンツを用意するかが今後の鍵を握っている。1つの可能性としては、来学することで得ている実感や経験をいかに再現できるかであり、バーチャルリアリティ（VR）等の活用が考えられる。実際に、2023（令和5）年度より、サイバー・フィジカル融合及び、グローバル化を基本方針の1つとして、オンラインオープンキャンパスサイトの全面リニューアルを行った。この効果については、今後検証していきたい。

対面オープンキャンパスについては応募状況が盛況であったことや、参加者からCOVID-19の感染者が出なかったことから、再開したことは成功であったといえよう。特に、東北地方、関東地方、中部・北陸地方という本学への志願者数が多い地域の高校生が待ち望んでいたことがうかがえた。本学の志願者層を維持・拡充していく上で、対面によるオープンキャンパスがきわめて重要であることが確認された。

全体を通して言えることは、オンラインと対面の使い分けを、距離や時間という点からの利便性だけで考えることは適切ではないという点である。広報の受け手側の視点に立つこと、彼らの情報ニーズに見合った方法を選択することが重要である。また、広報活動の効果をどう把握するかも重要な課題である。アクセス数や参加者数、参加者の満足度だけでなく、教員の進路指導や、高校生の学習行動、受験行動といった観点からも測定・評価すべきであろう。

さらに、やや否定的に述べたが、オンラインによって距離や時間の制約を克服できることがもっとも力を発揮するのは、国外に向けた広報活動であろう。この点については、試みとして、オンラインオープンキャンパスのオンデマンド型のコンテンツの多言語化（英語版、中国語版、韓国語版）と発信に取り組んでいる（詳しくは、南・宮本, 2022）。今後は、日本向けのコンテンツを単に翻訳するだけではなく、海外の留学志望者の情報ニーズに適ったコンテンツを最初から作成することが肝要であろう。

注

- 1) 本節の内容は、倉元・宮本・久保・南（2020）及び宮本・久保・南・倉元・長濱（2023）から関連部分を引用し、一部を加筆修正するとともに、最新のデータを加えて構成したものである。
- 2) 大学が行う広報活動の中でも、受験生に向けた情報発信は、他の広報活動とは区別して「入試広報」と呼ばれている。
- 3) 2017年版から「情報開示に熱心」と表現が変わっているが、実質的に同じことを意味している。ただし、2022年版以降該当する項目がなくなった。
- 4) 当時、2度の改組を経て、現在は、主として専任教員の所属組織である東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室と、特任教員を含む実施組織としての東北大学入試センターに組織上は分けられている。基本的に調査分析及び研究活動は入試開発室、広報活動の実施は入試センターの業務として位置付けられている。
- 5) 現在は「学校推薦型選抜」。本学では2014（平成26）年度の農学部を最後に推薦が廃止された。
- 6) 2021（令和3）年度は、18回のセッションとは別に、調整中であった入試日程が確定したことを受け、「オンライン入試説明会（内容確定版）」と称して追加の説明会を実施した。実施方法が異なるため、ここでの分析からは除外した。この説明会の詳細については、久保・宮本（2022）を参照されたい。
- 7) 2016（平成28）年度までは進学説明会。2017（平成29）年度から個別相談をより強調する目的で「進学説明会・相談会」と呼ぶこととなった。
- 8) 仙台会場は2022（令和4）年度には廃止することとなった。
- 9) イベントによっては、開催当日に参加予約や人数制限を設ける場合もある。

文献

- 朝日新聞出版（2020）. 『大学ランキング2021年版』 朝日新聞出版.
- 朝日新聞出版（2021）. 『大学ランキング2022年版』 朝日新聞出版.
- 檜田豪利（2021）. 「学校訪問データベースの制作と活用——戦略的な広報活動を目指して——」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7, 291-297.
- 河本敏浩（2009）. 名ばかり大学生—日本型教育制度の終焉—, 光文社新書.
- 久保沙織（2022）. 「オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」 倉元直樹・宮本友弘編 東北大学大学入試研究シリーズ6『コロナ禍に挑む大学入試（1）緊急対応編』 金子書房, 60-81.
- 久保沙織・宮本友弘（2021）. 「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」『教育情報

- 学研究』 **20**, 75-84.
- 久保沙織・宮本友弘 (2022). 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価 (2) —前年度との比較を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **8**, 169-176.
- 久保沙織・南紅玉・檜田豪利・宮本友弘 (2021a). 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 394-400.
- 久保沙織・南紅玉・檜田豪利・宮本友弘 (2021b). 「オンラインによる入試広報の展開—『オンライン進学説明会・相談会』の実践を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **7**, 57-65.
- 倉元直樹 (2005). 「ヴァージニア大学における入学者選抜と広報活動」『教育情報学研究』 **3**, 113-124.
- 倉元直樹 (2007). 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究 (1) —過去10年の東北大学入試データから描く「日本地図」—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **2**, 9-22.
- 倉元直樹 (2008). 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究 (2) —過去11年の志願動向に見る各募集単位の特徴—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **3**, 63-76.
- 倉元直樹 (2011). 「大学入試の多様化と高校教育—東北大学型『学力重視のAO入試』の特徴—」東北大学高等教育開発推進センター編『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』 7-40.
- 倉元直樹・泉毅 (2014). 「東北大学工学部AO入試受験者にみる大学入試広報の効果—その意義と発信型, 対面型広報の効果—」『日本テスト学会誌』 **10**, 125-146.
- 倉元直樹・佐藤洋之 (2006). 「高校生の大学イメージ」『大学入試研究ジャーナル』 **16**, 179-185.
- 倉元直樹・三原毅・小野寺淑行・鈴木敏明 (2005). 「大学体験と学習意欲」『大学入試研究ジャーナル』 **15**, 1-7.
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉 (2020). 「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」『教育情報学研究』 **19**, 55-69.
- 倉元直樹・山口正洋・川又政征 (2007). 「受験生からみた東北大学工学部のAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **17**, 43-49.
- 宮本友弘 (2021). 「エビデンスからみた大学入試学の意義と実際」宮本友弘・久保沙織編東北大学大学入試研究シリーズ5『大学入試を設計する』金子書房, 2-25.
- 宮本友弘 (2022). 「コロナ禍での対面オープンキャンパスへの挑戦」倉元直樹・宮本友弘編東北大学大学入試研究シリーズ6『コロナ禍に挑む大学入試 (1) 緊急対応編』 194-199.
- 宮本友弘・久保沙織・南紅玉・倉元直樹・長濱裕幸 (2023). 「オンラインと対面を融合した入試広報活動の展開—2022 (令和4) 年度の取り組みを中心に—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **9**, 99-110.
- 南紅玉・宮本友弘 (2022). 「東北大学における入試広報の国際展開—オンラインを活用した多言語情報発信の取り組み—」『令和4年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第17回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』, 84-87.
- 鈴木敏明・夏目達也・倉元直樹 (2003). 「オープンキャンパスとAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **13**, 7-10.

- 寺下榮・村松毅 (2009). 「東海・北陸地区国立大学—入試広報の取組②—エリア別志願者の受験行動に関する調査—」『大学入試研究ジャーナル』 **19**, 145-150.
- 東北大学(2020). 「東北大学ビジョン2030 (アップデート版)」東北大学 Retrieved from https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/newsimg/news20200729_00.pdf (2022年10月31日) .
- 東北大学百年史編集委員会編 (2009). 『東北大学百年史十一 資料四』, 東北大学.
- 渡邊重夫(2012). 「センター試験理科の科目設定をめぐる高校の準備状況について」 東北大学高等教育開発推進センター編『高等学校学習指導要領vs大学入試』東北大学出版会, 91-102.

4. 入試センター教員の活動

入試センターは、本務として高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に所属する教員に加え、平成28年度（2016年度）からセンター専任の特任教授が配属されている。特任教授は、高等学校教員の経歴を有する。さらに、令和4年度（2022年度）から本学名誉教授を特定教授として採用、現在は機構に所属し、入試センターと行動を共にしている。

入試開発室教員は、大学入試についての全般的研究を行い、我が国の入試改革への貢献を期するとともに、東北大学の入試についての具体的調査研究（追跡調査、入試方法・評価の検討等）を行い、その改善方策を検討している。科研費や学内資金によって、測定評価、選抜方法などについて、諸外国との比較研究を交え、様々な面からの研究を進めている。AO入試は各学部が主体的に企画・実施しているが、入試開発室はそうした調査研究をもとに各学部のシンクタンクないしはコンサルタントの役割を担っており、「学力重視のAO入試」というコンセプトを学部共通に確立している。

特任教授と特定教授は個別学力検査の出題科目に関する専門性に依拠して任用されており、作題・採点業務の支援に当たっている。特任教授は、作題支援業務に加え、東北大学入試の改善に関する調査研究や入試広報活動の企画・実施、高大接続事業の企画・実施等における高校との連絡調整、また入試業務（高校の実態を踏まえた提出書類の解釈・評価、提出書類の設計、面接試験等についての助言）等を行っている。

以下は令和4年度（2022年度）における入試センター教員の主な活動実績である。

4.1. 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討

具体的には、入試戦略委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換等がその中身である。

4.1.1. 全学的委員会におけるワーキング・グループ

学部入試関連の全学的委員会組織の下にワーキング・グループを置き、入学者選抜の企画・実施における全学支援体制の強化と各種課題解決（令和7年度入試に関する予告、作題サポートグループの新設、AO入試Ⅱ期入学前教育の改革、国際バカロレア入試の改革等）、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮した対面とオンラインによる入試広報活動の企画・運営（入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパス等）を行うとともに、高校調査等に基づき、以下のような項目について令和5年度（2023年度）以降の入試への対応を検討した。

(1) 入学者選抜の企画・実施に関連する対応

- ① 令和7年度（2025年度）大学入学者選抜に関する予告
- ② 作題サポートグループの編成
- ③ 国際バカロレア入試の改革
- ④ 私費外国人留学生入試の改革
- ⑤ 令和6年度（2024年度）入試における追試験方法の検討
- ⑥ 令和5年度（2023年度）私費外国人留学生入試における筆記試験の代替措置方針の検討

(2) 入試広報活動に関する対応

- ⑦ 対面とオンラインのハイブリッド方式によるオープンキャンパスの企画・実施
- ⑧ 対面による入試説明会仙台会場及びオンライン入試説明会の企画・実施

- ⑨ 対面による進学説明会・相談会の企画・実施
 - ⑩ 「東北大学案内」の作成・配布
- (3) その他
- ⑪ A O入試Ⅱ期入学前教育における全学プログラムの新規導入
 - ⑫ 令和5年度(2023年度)東北大学新入学者対象アンケートの項目改定
 - ⑬ 大学見学(高等学校)の受け付け再開に関する検討

4.1.2 本学入試関連調査・分析及び学内支援等

入試及び広報活動の効果を検証するために、新入学者対象アンケートを実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで実施することとなった一部の広報活動に関しては、該当する項目を適宜改訂した。回収率は98.9%。分析結果より、オープンキャンパスが本学受験に及ぼす影響等を明らかにし、入試広報戦略委員会で報告の上、全学部で共有するとともに、次年度の広報活動計画の策定に活用した。

一般選抜個別学力試験結果の分析、人口動態に応じた志願者数の分析、観点別評価に関する高校調査等の分析・調査を行った。また、学務情報システムからのダウンロードデータと連携した追跡調査用システムを構築した。

特任教授5名(うち、1名は非常勤)、特定教授4名を任用して入試業務の支援を推進し、学部教員負担の軽減を図った。さらに、作題担当者の安定的な確保のための体制(作題サポートグループ)を新たに構築し、安定的な体制確保に向けた基盤を整備した。

工学部及び医学部保健学科の入試関連委員会に専門協力者、あるいはオブザーバーとして加わり、入試実施に関わる助言・実施協力を行ったほか、各学部のA O入試等に関する相談対応・助言や、国際学士コースの入試に関しては国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。

各学部に対する支援として、入試に関するコンサルティングを文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部に対して実施した。文学部、医学部保健学科、歯学部では、入試センター教員が講師を務め、入試関連FDを実施した。また、各教科・科目の作題担当教員への支援として、前年度の入試データの分析結果を共有した。

4.1.3 入試研究と成果の公表

日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的研究(開拓)『『大学入試学』基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて——』(課題番号20K20421, 令和元年度~令和4年度)及び、基盤研究(A)「コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究」(課題番号21H04409, 令和3年度~令和7年度)を中心に、基盤研究(B)('『主体性』評価支援を目的としたCAT方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発」, 課題番号21H00874, 令和3年度~令和7年度)、若手研究('過去問データベースとAIを活用した大学入試個別学力試験作題支援システムの構築」, 課題番号21K13636, 令和3年度~令和5年度)を継続し、調査及び情報収集を行い、大学入試研究を推進した。主要な活動として、フランス(フランス国民教育・青少年省、クロード・モネ高校、パリ・シテ大学)とオランダ(オランダ教育測定研究所)の入試関連機関を訪問し、インタビュー調査と資料収集を行った。研究成果については、入試センターホームページ、及び、上記4つの科研費によるウェブサイトにおいて随時掲載するなど、社会に向けて積極的に発信した。

令和4年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（入研協）はオンラインで実施され、6件の研究発表を行った。加えて、日本教育心理学会総会や日本テスト学会大会においても大学入試研究の成果に関連する発表を行った。大学入試研究ジャーナルに6本、高度教養教育・学生支援機構紀要に2本、教育情報学研究に3本の論文が掲載された。これらの中には、医学部保健学科、歯学部、農学部との共同研究の成果が含まれる。

上記科研費による研究成果の1つである東北大学大学入試研究シリーズ第6巻と第7巻の監修・編集を行い、刊行した。また、シンポジウム（第36回東北大学高等教育フォーラム）を開催し、その成果について東北大学大学入試研究シリーズ第8巻として出版の準備を進めた（令和5年度刊行済）。

4.2. 入学者選抜の実施

東北大学入学試験に関する実施本部及び構成員、入試関連の全学的委員会の構成員として以下のような活動を行った。

- ① 入試実施等に係る業務（AO入試Ⅱ期・Ⅲ期及び一般選抜前期・後期日程における実施本部、作題支援、大学入学共通テストにおける実施本部、試験監督等）
- ② 全学的な入試関連各種委員会（入学試験審議会、入試実施委員会、入試戦略委員会）の委員
- ③ AO入試Ⅱ期実施（志願者1,078名、合格者277名） 前年比志願者152名増
- ④ AO入試Ⅲ期実施（志願者1,062名、合格者380名） 前年比志願者306名増
- ⑤ 医学部医学科地域枠入試実施（志願者26名、合格者9名）
- ⑥ 科学オリンピック入試実施（志願者0名、合格者0名）
- ⑦ 国際バカロレア入試実施（志願者4名、合格者3名）
- ⑧ 帰国生徒入試実施（志願者12名、合格者6名）
- ⑨ 私費外国人留学生入試実施（志願者77名、合格者27名） 前年比志願者12名増
- ⑩ グローバル入試Ⅰ期実施（志願者1名、合格者0名）
- ⑪ グローバル入試Ⅱ期実施（志願者5名、合格者0名）
- ⑫ 一般選抜（前期日程）実施（志願者4,239名、合格者1,710名） 前年比志願者153名減
- ⑬ 一般選抜（後期日程）実施（志願者1,007名、合格者115名） 前年比志願者325名減

4.3. 入試広報活動

入試広報活動として、高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供等を実施した。令和2年度（2020年度）に引き続き、仙台会場を除く入試説明会はオンラインで代替するとともに、令和4年度（2022年度）には、コミュニティ・アプローチとして、これまで宮城県内の高等学校教員を対象に開催してきた情報交換連絡会を東北地方の他県にも拡大する新たな試みを行い、東北6県で情報交換連絡会または入試説明会を実施した。

なお、入試説明会仙台会場及び、進学説明会・相談会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため完全予約制とした。

- ① オンライン入試説明会（高校教員対象）を18回実施、参加者100名（32都道府県）（前年実績229名）

- ② 入試説明会仙台会場（高校教員対象）を6月21日に完全予約制で実施，参加者211名（91校）
- ③ 進学説明会・相談会（受験生・父兄対象）を全国5会場，完全予約制で実施，参加者数：大阪（名古屋大学・群馬大学・名古屋工業大学と共催）124名（6月12日），静岡（名古屋大学・茨城大学・群馬大学・山形大学・名古屋工業大学と共催）247名（6月26日），札幌（名古屋大学・茨城大学・群馬大学と共催）95名（7月3日），東京825名（7月17・18日），福岡（広島大学と共催）33名（8月7日）
- ④ オンライン個別進学相談会（受験生・父兄対象）を7月9・10日と10月15・16日に実施，参加者100名
- ⑤ 東北6県で入試説明会・情報交換会（コミュニティ・アプローチ）を実施，参加者数：青森25名19校（6月28日），岩手28名19校（7月14日），秋田11名12校（7月6日），山形26名11校（6月14日），福島52名27校（6月8日），宮城11名8校（令和4年3月31日）
- ⑥ 民間業者等開催の説明会6件（うちオンライン2件）
- ⑦ 高校訪問21校（入試センター教員分）
- ⑧ 総長メッセージ，私費外国人留学生入試説明会等，22の動画コンテンツの多言語化を推進，YouTubeの総再生数：英語版13,527，中国語版7,967，韓国語版7,377（令和5年2月25日時点）
- ⑨ 東北大学案内の作成37,000部発行
- ⑩ 入試センターウェブサイトによる情報の発信

4.4. 高大接続・連携事業

フォーラム開催，出前授業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画・開催・全学支援等を行った。なお，対面オープンキャンパスは，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため完全予約制とした。

- ① 第36回東北大学高等教育フォーラム（5月18日）「大学入試政策を問う——教育行政と教育現場の『対話』——」をオンラインと対面のハイブリッド方式で実施，参加者541名（オンライン参加439名，来場参加102名）（前年比12名増）
- ② 対面オープンキャンパスを7月27・28日に完全予約制で開催，参加者5,680名（申込者数延べ26,378名（倍率3.67）），10学部のプログラム総数168本
- ③ オンラインオープンキャンパスのウェブサイト開設，訪問者85,665名（前年実績158,256名）
- ④ 高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣23件（うちオンライン5件）

4.5. 他機関との連携

既述の通り，進学説明会・相談会の札幌会場，大阪会場，静岡会場，福岡会場は他大学との共催により実施した。

また，令和2年度（2020年度）より，国立大学アドミッションセンター連絡会議の事務局を務めている。第36回東北大学高等教育フォーラムを当会議のシンポジウムとして共催するとともに，同日に第20回総会を開催し，国立大学間の連携・情報交換の場を提供した。

科研費基盤研究（A）（研究代表者：倉元直樹）との共催として，大学入試センター主催シンポジウムが実施された。

4.6. 個別教員の活動

教員の活動は、「東北大学研究者紹介」ウェブサイトからご覧ください。

<https://www.r-info.tohoku.ac.jp/>

The screenshot shows the '東北大学 研究者紹介' (Tohoku University Researchers) website. The page has a purple header with the university logo and name. Below the header, there are three main search sections: 'キーワードで探す' (Search by keyword), '名前で探す' (Search by name), and '所属で探す' (Search by affiliation). The '所属で探す' section is expanded, showing a list of departments and research centers with expandable icons. To the right, there is a '専門分野で探す' (Search by specialty) section with a list of fields.

東北大学 研究者紹介
TOHOKU UNIVERSITY Researchers

ホーム 日本語 English

キーワードで探す

名前で探す

所属で探す

※ 下部組織を表示する

- 役員
- 総長・プロボスト室
- 国際戦略室
- 総務企画部
- 研究推進部
- 産学連携機構
- マイクロシステム融合研究開発センター
- 高等研究機構先端スピントロニクス研究開発センター
- 大学院文学研究科
- 大学院教育学研究科
- 大学院法学研究科
- 大学院経済学研究科
- 大学院理工学研究科
- 大学院薬学系研究科
- 大学院歯学研究科
- 大学院薬学研究科
- 大学院農業研究科
- 高度教養教育・学生支援機構
- 学術資源研究公開センター
- 言語A1研究センター
- サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
- 未来科学技術共創研究センター
- データシナジー創生機構
- 災害科学国際研究所
- 環境保全センター
- 電子伊奘止掃雲基礎研究センター
- 高等研究機構学際科学フロンティア研究所
- ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進センター
- 研究推進・支援機構
- サイバーサイエンスセンター
- 未来スクールデータアナリティクスセンター
- 事業支援機構
- 高等研究機構材料科学高等研究所

専門分野で探す

※ 詳細な分野を表示する

- ライフサイエンス
- 情報通信
- 環境・農学
- ナノテク・材料
- エネルギー
- ものづくり技術 (機械・電気電子・化学工学)
- 社会基盤 (土木・建築・防災)
- フロンティア (航空・船舶)
- 人文・社会
- 自然科学一般
- その他